

令和元年度 印旛地区教育研究集会

R1. 8. 20(火)
道徳研究部提案資料

研究主題

自己を見つめ、心豊かに、
ともによりよく生きる子どもの育成
～問題解決的な学習を通して～



印西市立原小学校 道徳研究部

1 研究主題

自己を見つめ、心豊かに、
ともによりよく生きる子どもの育成
～問題解決的な学習を通して～

2 主題設定の理由

<学習指導要領から>

高度な情報化、グローバル化によって、社会が急激に変化し、価値観が多様化する今日、自己の生き方を考え、他者とともにによりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことがますます重要となっている。学習指導要領では道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して道徳性を養うことを目標としている。

児童にとって生活の中で起こる様々な問題は、必ずしもすぐに答えが出るものではない。また、答えが一つではなく、正解がない場面に直面することも多い。こうした生きる上で出会うであろう答えが一つではない道徳的な問題や課題に対応していくために児童一人一人が自分自身の問題と捉え、向き合おうとする資質、能力を養うことが重要になってくる。そこで、他教科でも行われている「問題解決的な学習」を取り入れた指導方法の工夫を行っていく。心情のみを問うような形式的な指導ではなく、問題解決的な「考え、議論する」授業への質的転換を図っていくことで、ものの見方や考え方を広げ、自己の生き方について考えを深めていくことができると考える。

学習指導要領の指導の基本方針の中でも、「児童が道徳的価値を自分との関わりで考えることができるような問題解決的な学習を取り入れることが有効である。」としている。

<千葉県道徳教育の指針から>

千葉県における道徳教育の主題は、「『いのち』のつながりと輝き～大切なあなた、大切なみんな、大切な自然と地球、そして大切なわたし～」である。小学校では、「かかわる『いのち』」をテーマとして、自己の生き方についての考えを深めながら、豊かな体験を通して内面に根ざした道徳性を育成する」取り組みをしていく。

児童は日々の学校や家庭での様々な場面の中で、自分を振り返ったり人との関わり方について考えたりしながら生活している。問題解決的な学習を取り入れ、ものの感じ方や考え方の異なる友達との話し合いを活性化させることは、児童が自己と向き合い、よりよい生き方について考えを深めていくために効果的であると考える。

<学校教育目標から>

【学校教育目標】

人間性豊かな、考え行動できる心身ともにたくましい子どもの育成
～自らの可能性に挑戦する活力ある原っ子～

◇めざす児童像

「思いやりのある子」「考え行動できる子」「たくましい子」

本校では、豊かな人間性の具現化した姿を、思いやりのある子ととらえている。他者を思いやるとは、他者の考えや心情を理解し関わろうとする積極的な心の動きであり、他者に心を寄せることで必然的に他者とは別の存在である自己を強く感じることができる。また、問題解決的な学習は話し合いをする中で、自分と他者とのものの見方や考え方の違いに気づくことができる。

さらに本校の重点目標、「あかるいあいさつ」「いのちを大切に」「うつくしい学校」「えがおがいっぱい」「おもいやりの心」を児童が親しみやすい合い言葉にして、学校の教育活動全体を通じて道徳性を養っていく。

児童をとりまく様々な状況の中で、自己の思いや他者の思いを互いに認め合い理解し合い、ともによりよい生き方を考えていく道徳科の学習を積み重ねていくことで、本校の学校教育目標の実現に繋がると考える。

<児童の実態から>

学校の周囲はマンション群に囲まれ、さらに東に、南にと、戸建て住宅がどんどん建設されている。ほとんどが全国から引っ越してきた新しい住民であり、経済的に恵まれているが地域や住民同士の関係は希薄である。児童は4教科を中心とした知識・理解の能力は高い。道徳科の授業においては、正解や先生が求めているであろう正しい考えを探り答える児童が多く、本音が出にくい。また、人間関係の希薄さや表現力不足から、友達同士と関わる場面で人と人との距離感やコミュニケーションがうまくとれず、何か問題が起きても自分と直接関係がなければ関わっていかうとしない面も見られる。このような中で良い人間関係を持ち、ともによりよく生きる気持ちや態度が重要になってくる。

そこで道徳科の授業において問題解決的な学習を工夫することにより、児童が日常で起きそうな様々なできごとを自分のこととして主体的に考え、本音で議論し、話し合う中で、さらに考えを深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲や態度を育てていきたいと考える。

3 研究仮説

【仮説1】

児童相互の積極的な関わりを生み出すような指導方法を工夫すれば、価値について主体的に考え議論し、自己のよりよい生き方について考えが深まるであろう。

【仮説2】

児童の変容の見取りを積み重ねて評価していけば、自らの成長を実感し、道徳的な実践意欲が向上するであろう。

4 1時間の授業モデル

【導入】

価値に迫るテーマを提示する

- 価値に対する興味関心を高め、自己を見つめる動機付けをする。
- ・ 学習の見通しを持たせる。

この時間の学習問題

【展開】

教材をつかむ

- テーマ（価値）について自分の考えを持つ。
- ・ 他者と対話したり協働したりしながら、物事を多面的・多角的に考える

話し合う

「考え 議論する」

<仮説1>

- 価値理解を基に自己を見つめる発問の工夫
- ・ 立場をはっきりさせることをきっかけにして発展していくような発問 (A or B)
- ・ 本音を出させ納得解を持たせる発問
- ・ 児童の考えを揺さぶり、切り返す発問

中心発問について考える

【終末】

自分自身や価値について振り返る

- 価値に対する思いや考えを深める。
- ・ 実現することの良さや難しさを確認する。
- ・ 個人内評価をする。 <仮説2>

5 研究仮説について

【仮説1】 **考え議論する**

児童相互の積極的な関わりを生み出すような指導方法を工夫すれば、価値について主体的に考え議論し、自己のよりよい生き方について考えが深まるであろう。

1 発問について

① 導入→テーマ設定

○ 導入部分で内容項目に迫るもの

「ヌチヌグスージ」→ みんなが命について思ったことから考えよう。

命は

大切なもの、一つしかないなどが出たら

「ロレンゾの友達」→ 自然教室で友情を深められましたか？

自然教室で深まった友情を、さらに深めるにはどうすればいいのかな？

事前のアンケート

○ その時間を通して考えていくもの。→テーマ

例) 「だれとペアに」 → 思いやりってなんだろう。

「ヌチヌグスージ」→ どうして命は大切なのだろう。

「ロレンゾの友達」→ さらに友情を深めるために大切なことは何だろう。

② 考え、議論するための発問 ⇒ 一番盛り上がるころの発問

例) ・「だれとペアに」 → なぜペアを決めるのに迷うのだろう。

・「ヌチヌグスージ」→ コウちゃんはどんな思いで「ぼくの命ってすごいんだね」と言ったのだろう。

・「手品師」→ もし自分が手品師だったら大劇場と男の子のどちらにいきますか。

・「ロレンゾの友達」→ 木の下で話し合ったことを言えなかったのはなぜだろう。

○ 切り返しの発問、揺さぶりの発問 ⇒ つぶやきを拾う、事前アンケートから 教師の反対意見 等

例) ・～と思ったのは、どういうことかな。

・アンケートでは、～とみんなは言っていたけどどうかな。

・本当にできるのかな。

○ 内容項目(価値)に迫るための中心発問 ⇒ 出た意見の共通項を探し、問題解決するような発問

例) ・なぜ主人公は～したのだろうか。

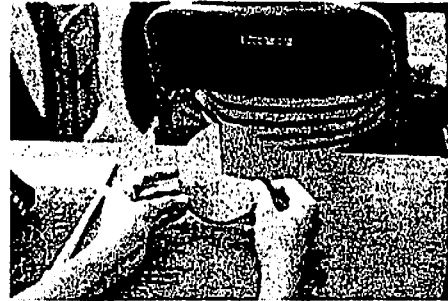
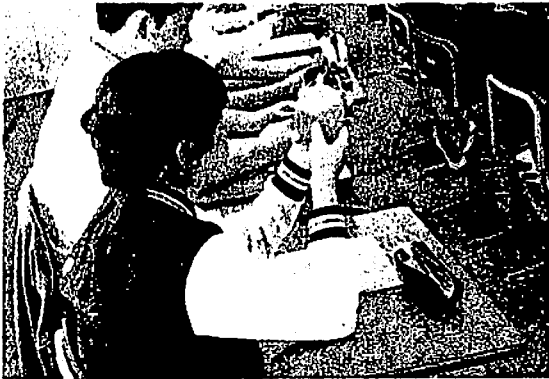
・主人公が〇〇で迷っている元になっている思いは何だろう。

・主人公は、どうしたらよかったのだろうか。

2 活発にするための様々な手立て

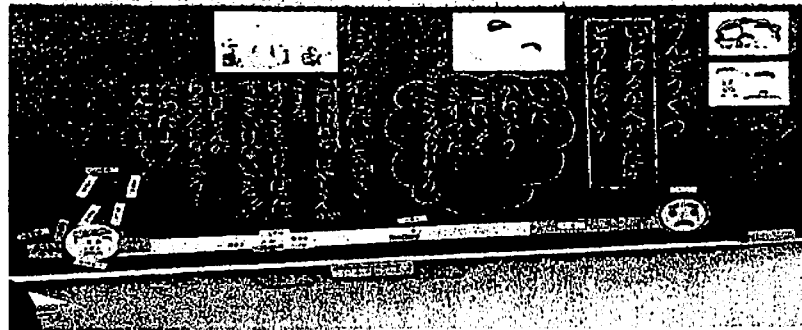
○話し合いを活性化させるための工夫例

- ・実物を見せる
- ・紙芝居の提示，再現構成法，口演法
- ・役割演技，体験的な活動
- ・思考ツールの活用（心情メーター，イメージマップなど）
- ・コの字型の机の配置
- ・小グループでの話し合い

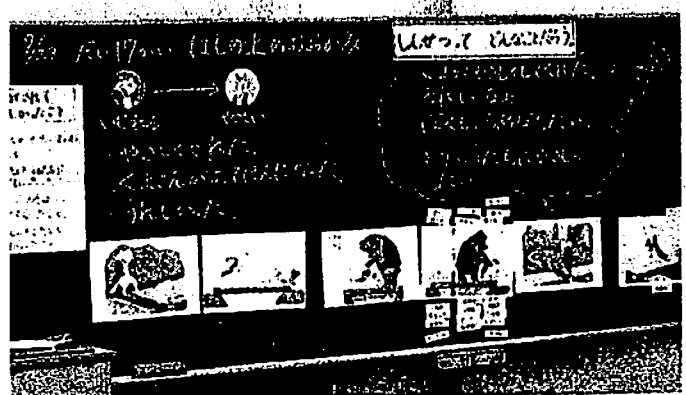


AかBか。今の自分の考えや心情を可視化し，友だちと話し合う。

黒板に心情メーターを掲示し，児童のネームカードを展開前段と展開後段で貼ることで，児童の心情の変化を視覚的に捉える。



各自の考えを付箋紙に書いて，小グループで話し合い，考えを広げる。



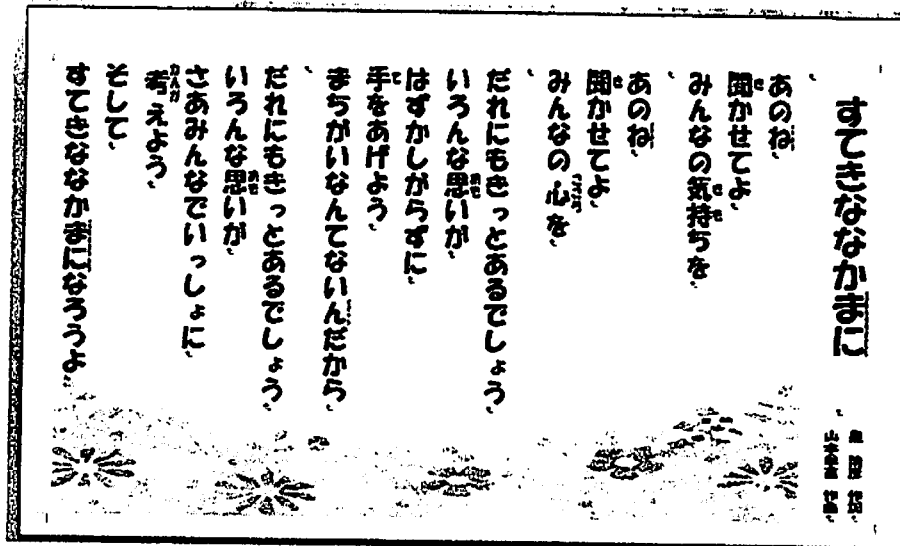
紙芝居を提示して，考えさせたい場面を焦点化する。

< 児童の気持ちを高めるための工夫 >

- ・ 道徳科の学習では、どんな気持ちを話してもよいという安心感を持たせ、本音で語り合える場をつくる。

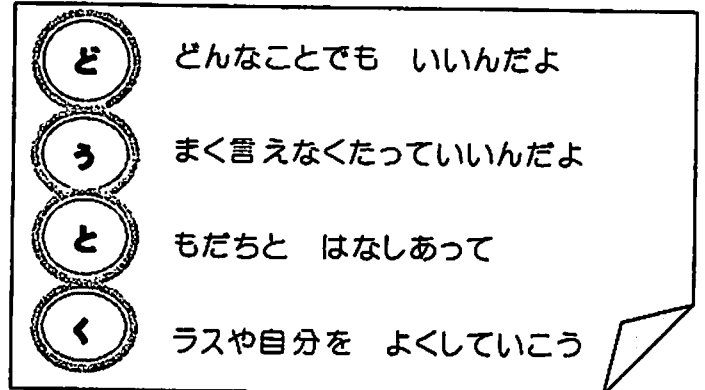
○ 本校職員の作詞・作曲による道徳の歌♪ 「すてきななかまに」♪

- ・ 朝の歌や道徳科の授業の前にクラス全員で歌い、互いを認めあい受け入れ合う雰囲気を作る。



作詞 星清彦 作曲 山本早苗

○ 話の聴き方の掲示物 (あいのそなたさ) ○ 道徳の時間の合言葉 (ど・う・と・く)



< 終末の工夫 >

終末は、その時間に関わる説話や歌、詩などを読み、児童の中でその時間の振り返りができたり、多面的多角的な視野が広がったりできるようにする。

- 教師の説話
- 歌
- 詩の紹介
- 短い映像 (A C ジャパンなど) の紹介

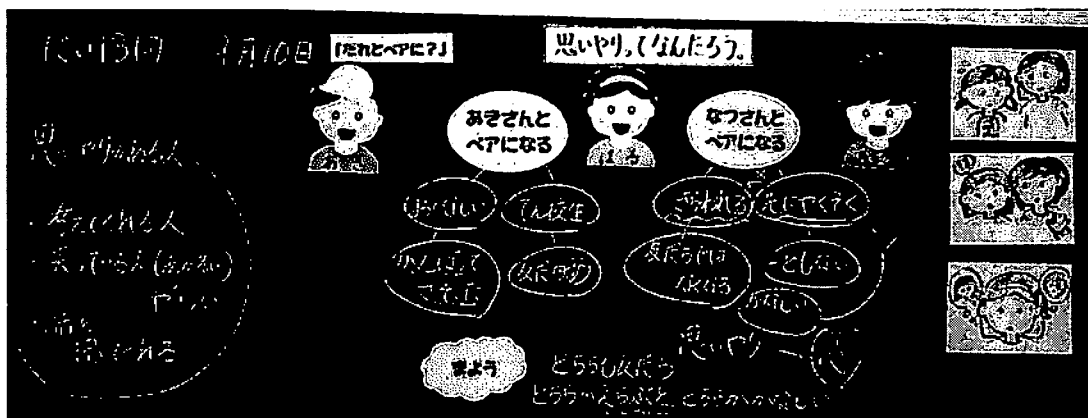
板書の構造化

○児童の考えや思考の過程が可視化されている板書

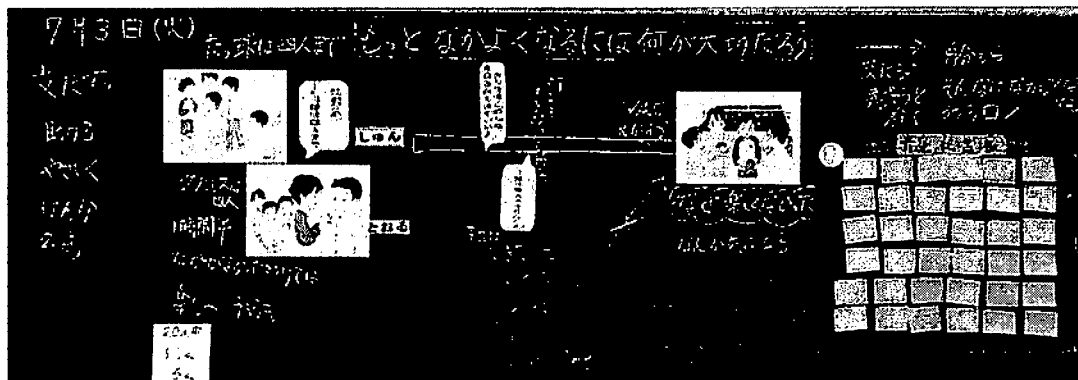
○児童が話し合いを深めたり、考えをまとめたりする際の手がかりとなる板書

- ・ 黒板を横書きで使うことを基本とする。
- ・ 日付・第○回道徳・教材名・テーマ（青枠）を入れる。必要であれば、サブテーマとして、中心発問も入れる。
- ・ 価値の深まりがわかるようにする。横書きの場合は右へ行くほど価値が深まっている。
- ・ 思考を深める手がかりとなるよう、児童の考えの違いを対比させたり、似た考えを類型化したりし、構造化された板書を心がける。

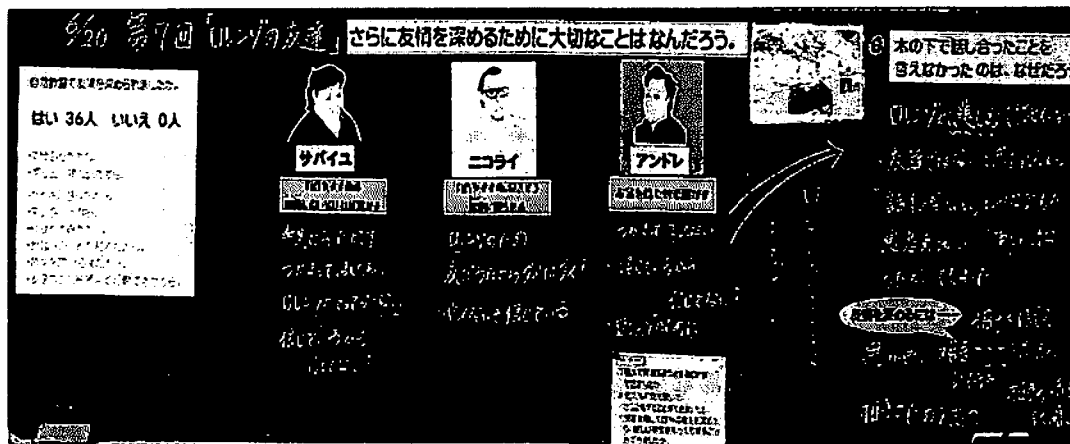
< 2 年生 >



< 3 年生 >



< 5 年生 >



【仮説2】 評価

児童の変容の見取りを積み重ねて評価していけば、自らの成長を実感し、道徳的な実践意欲が向上するであろう。

評価の実際

○ねらいに沿った授業評価の観点

- ・目標が達成されたかではなく、個人内評価として、以下の4つの観点で見取り、学びの様子を記述により評価する。他の児童との比較ではなく、個々の児童の成長を認め、励ましていく。教師にとっては、指導の改善・充実に取り組むための資料とする。

1. 道徳的諸価値について理解したか。
2. 自己を見つめられたか。
3. 物事を多面的・多角的に考えられたか。
4. 自己の生き方についての考えを深められたか。

○評価の具体的な方法

- ・ノートやワークシートの記述や振り返り・自己評価（3観点）
- ・授業中での発言や話し合いのメモ（教師による見取り）
- ・数名の抽出児の継続観察
- ・日記、作文での記述
- ・授業後、道徳ノートの児童の振り返りをもとに、学年でその教材についての評価を作成していく。

低学年の
振り返りシート

ふりかえろう。

◎…とてもできた ○…できた △…もうすこし

すすんではっぴょうすることができましたか。

ともだちの いろいろなかんがえかたに
きづくことができましたか。

じゅぎょうを とおして、じぶんなりの
かんがえを もつことができましたか。

中・高学年の
振り返りシート

授業の振り返り

①進んで発表しようとするのが、できましたか。

②友だちの話を聞いて、さらに考えることができましたか。

③授業を通して自分の考えを深めたり、新しい考えをもったりすることができましたか。

※ノートに
◎・○・△で
振り返る。

道徳ノートの活用

○自己を見つめ、成長が実感できるノート

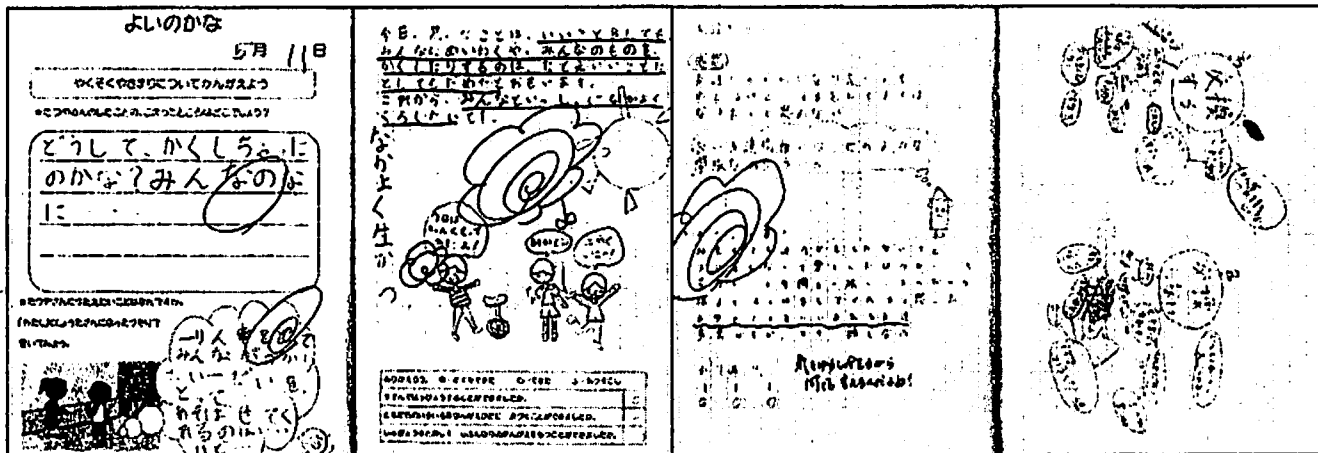
- ・授業後も考える際の手がかりにしたり、これまでの積み重ねをこれからの励みにつなげていたりするために、記録を積み重ねていく。また、児童個人の変容や意欲を見取り、評価にもつなげていく。

○使い方 (A4 10mm方眼ノートを使用)

- ・日付 ・第○回道徳 ・教材名 ・テーマ (背枠)
- ・中心発問についての自分の考えを書く。
- ・本時の振り返りをする。
- ・自己評価 (記号化…◎○△)
- ・前もって教材文を読み、初めの感想をもっておく場合もある。
- ・ワークシートを使う場合も、必ず上記の各内容を入れ、ノートに貼る。
- ・1時間の授業で見開き1ページを基本とするが、学年の実態、その時間の内容によって変わる場合もある。
- ・教師が見た足跡を入れる。(○やコメント、GOOD!などを朱書きで)

☆自己評価の3観点☆

1. 進んで発表することができたか。
2. 友だちのいろいろな考え方に気付くことができたか。
3. 授業を通して、自分なりの考えをもつことができたか。



◇2年…「よいのかな」低学年は主にワークシートを利用。 ◇6年…「友達だからこそ」イメージマップで思考する。

○通知表における評価 (評価文例参照)

- ・1・2学期…変化が見られた教材に絞り、具体的に記述する。(「手品師」の学習では～)
- ・3学期 …年間を通して成長や変化が見られた内容項目について、大きくりなまとまりで記述していく。(節度・節制をテーマにした学習では～)



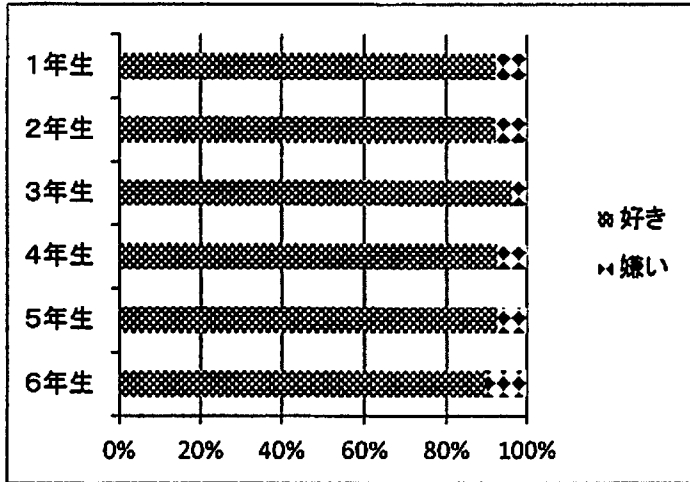
指導要録の評価につなげていく。

6 アンケート結果から

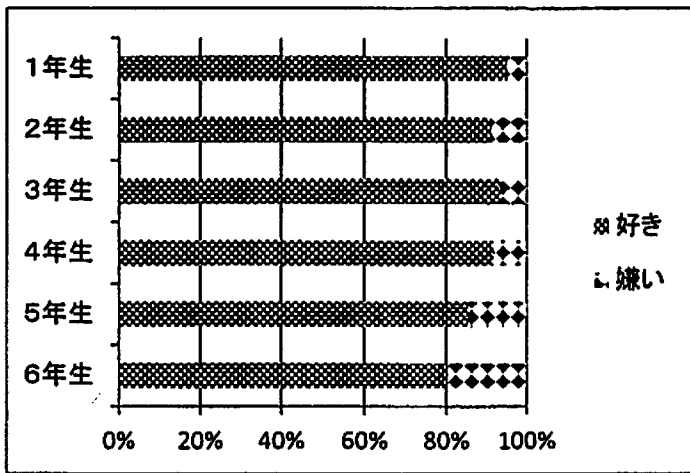
<情意面に関するアンケート結果>

(調査対象:1~6年生) <調査時期 平成30年7月>

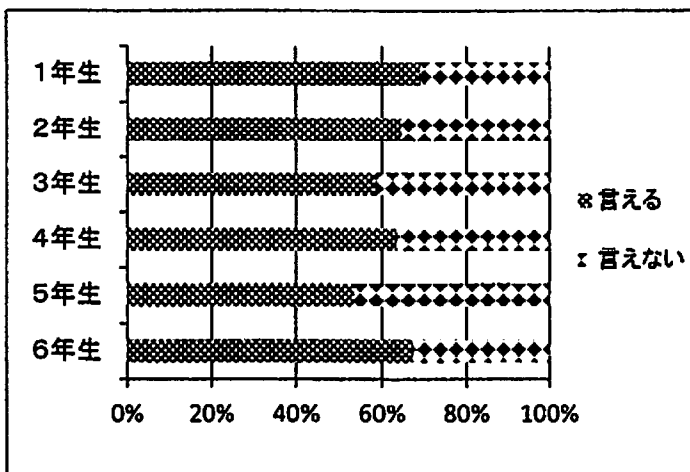
① 道徳の学習は、好きですか。



② 自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりすることは好きですか。

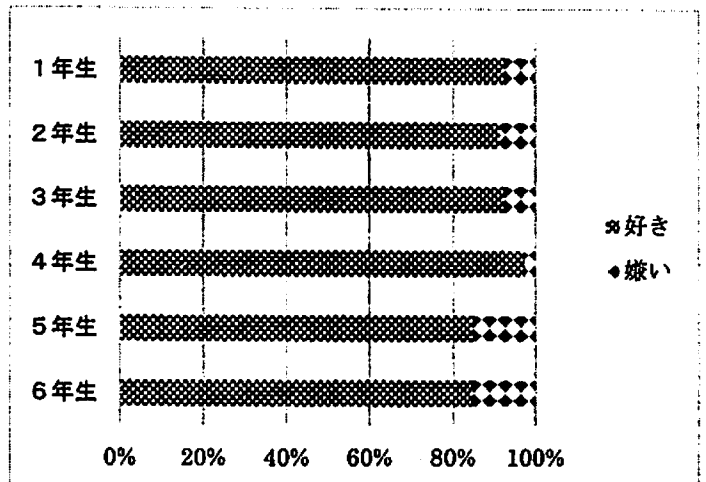


③ 友だちの意見とちがうな、と思ったとき、自分の意見を言えますか。

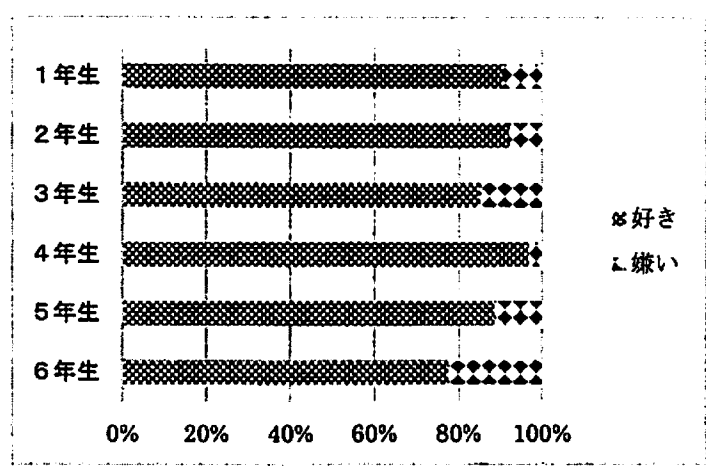


(調査対象:1~6年生) <調査時期 令和元年7月>

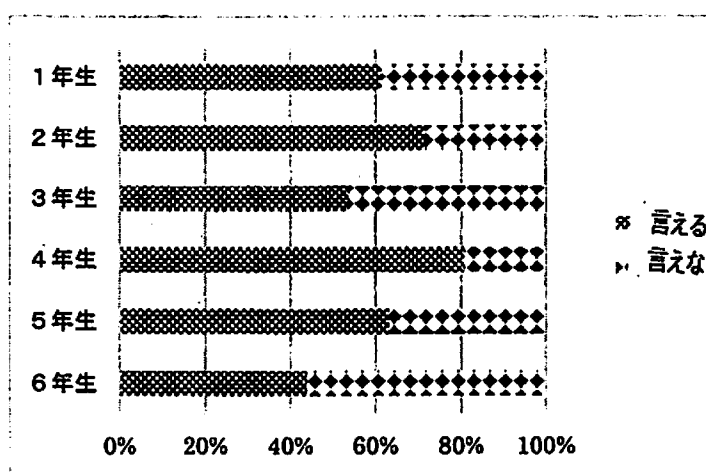
① 道徳の学習は、好きですか。



② 自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりすることは好きですか。



③ 友だちの意見とちがうな、と思ったとき、自分の意見を言えますか。



① 道徳の学習は、好きですか

全学年ともに道徳が好きな児童が多いことが分かった。自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりすることがその理由として挙げられた。道徳には間違いがないため、授業での発表のしやすさも「好き」と答えた児童が多くなった理由と言えるであろう。また、児童が生活していく中での指針となる事柄が学べるため、道徳が好きだと答えた児童も多かった。

一方、「きらい」と回答した児童の理由としては、意見がもてないことや気持ちを考えられないことを挙げた児童が多かった。

② 自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いたりすることは好きですか

高学年で「好き」と答えた児童の割合が落ち込んだものの、話し合いが好きな児童が多いことが分かった。「好き」と答えた児童の多くは、自分とは違う新たな考えを知ることができ、自らの考えが深まることに道徳への価値を見出していた。また、自分の考えを友だちが真剣に聞いてくれたり相槌をうってくれたりすることが喜びとなり、話すことへの意欲につながっていると考えられる。

一方、「きらい」と答えた児童の多くは、恥ずかしさや反対されたら嫌だから、と答えた児童が多かった。

③ 友だちの意見とちがうな、と思ったとき、自分の意見を言えますか

1年生、及びクラス替えのない現2・4年生では、児童が安心して発言できる雰囲気をつくられており、6割以上の児童が自分の意見を主張することができると答えた。自分の本音を出して伝え合うことが大切であること、また、自分の意見を言うことで友だちがどう思うかが面白いなどが理由として挙げられた。

反対に「言えない」と答えた児童の多くは、友だちと同じ意見でないと不安、違うことを言って雰囲気が悪くなったら嫌、など他者との違いを気にする意見が多くみられた。

2年間を比較した考察

2年間を通して、学年が上がったことで道徳の学習に対する意識に変化が見られたが、道徳の学習については、全学年とも好きな児童が多いことが分かった。

しかし、高学年の話し合いの意欲は低いままであった。これは、高学年において、本音を出す話し合いが2年間ではなかなか定着しなかったものと思われる。低学年からの長い間の耕しや指導を行うことで、話し合いに対する抵抗感がなくなり、間違えてもいいから自分の考えを伝えることができるようになると考えられる。

7 成果と課題

仮説1について

《 成果 》

- 内容項目に合った道徳授業の1時間の流れが分かってきた。また、児童の反応を意識しながら授業を組み立てられるようになった。
- 道徳の話し合いには正解がなく、本音を言って良いことや、どんな意見も受け入れられることが児童間に浸透してきたことで、道徳科の授業を楽しみにする児童が増えた。また、他教科の話し合いの場面でも、何を言っても良いことが生かされ話し合いが活発になった。
- 発問を精選し、大きな柱を立てて考えるようにしたことで流れがすっきりし、児童も見通しをもって意欲的に話し合えるようになった。
- 教師が主導にならなくても、児童が自分たちで話し合いの中から、答えになる納得解を見つけ出すことで満足感を得ることになり、新たな価値観や前向きな気持ちに気づくことに繋がっている。
- 毎時間の板書写真と資料を、初めにやったクラスからインデックスをつけて綴じ込んでいる。このことで先にやった先生方のものをもとに各クラスで共有することができた。

《 課題 》

- 一クラスの数も多く、話し合いの時に挙手が多くなったため、指名しきれず全員の意見を発表の形で聞くことができない。そういった児童の満足感や、話し合いの意欲を持続させるにはどうしたら良いか課題である。
- 敬けん・畏敬の念・自然愛護・国際理解などの内容項目では、1時間の中で、もっと弾力的に教材の活用の仕方を工夫していく必要がある。教材から早く離れたりと、他の資料を加えたりなど、多面的・多角的に考えられるようにしていきたい。
- 児童に投げかけるテーマ発問の設定が難しい。教材と結びついた内容で、さらに児童が考えたいようなもの設定することを心掛けたが、どの学年も同じようなものになり、さらに難しかった。
- 表面的な話し合いではなく、深まった授業になると、時間が足りなくなる。特に、高学年では一つの教材に何時間もかかることがあった。しかし、友情・信頼、親切・思いやり、いじめに関わることなどは、時間がかかっても大切にしていきたい。特に、いじめに関するものは、児童の自由な発言だけにすると、誤った方向にいつてしまうこともある。いじめはあってはならないことは、児童誰もが頭では理解しているが、現実には誰にでも起こりうる問題として、いじめが起きたときにどうすれば良いか自分事として考え、見過ごさない強い気持ちを育てる必要がある。

仮説2について

〈 成 果 〉

- ノートの書き方を全校で統一し、振り返りを必ず書かせることで、個人の変容や意欲を見取り、評価につなげることができた。
- 学期に1回、学年ごとに道徳の評価の観点について考える時間をもった。そのため、学年内で評価のばらつきは見られなかった。
- 児童も授業前と授業後を比べたり、1学期の道徳生活を振り返ったりすることで、児童自身も自分の深まりに気づき、納得解を得ることもできた。
- 児童の生活の中の様々な場面で道徳で学んだことが思い出され、声を掛け合う場面が見られた。

〈 課 題 〉

- 道徳科の評価は客観的に数字で表されるものではないので、教師間の統一や、話し合いをしっかりとっておく必要がある。
- 1年間に3回の評価は教師にとって大変である。1年間に1回でも保護者には伝わると考えられる。
- 保護者の理解や協力を得るために、働きかけの工夫はこれからも必要である。

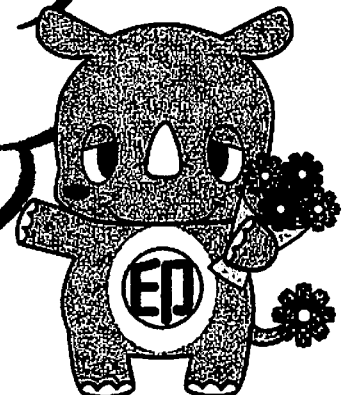
おわりに

オープンのフロアで、どなかのクラスから「すてきななかに」の歌声が聞こえてくると、「あっ、道徳だ。いいなあ」の声が上がるようになりました。

普段注意されることが多い子供も、“なにをいってもまちがえはない”“みんなが聞いてくれる”ということに大きな魅力を感じるのでしょうか……。教師の予想を超える子供たちの言葉に、逆に感動してジーンとしてしまうことも時にはあります。

本日はつたない発表を最後までお聞きいただき、本当にありがとうございました。

チーム原



令和元年度 印旛地区教育研究集会

R1. 8. 20(火)
道徳研究部提案資料

資料編

1 指導事例

- 1年 かぼちゃのつる
- 3年 ヌチヌグスージ
- 5年 ロレンゾの友だち
- 2年 だれとペアに
- 4年 本当の宝物
- 6年 ひきょうだよ

2 パワーポイントから



印西市立原小学校 道徳研究部

- 1 主題名 わがままをしないで A—(3) 節度, 節制
 (教材名 「かぼちゃのつる」 出典 教育出版 小学道徳1 はばたこう明日へ)

2 主題設定の理由

(1) 価値について

本主題は、低学年内容項目 A—(3)「健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。」にあたる。中学年の「自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度ある生活をする。」に、さらに高学年では「安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛けること。」につながっていく。

人間は社会的なつながりの中で助け合いながら生活しているため、自分勝手な行動は、周囲の人に迷惑をかけることになる。また、ときにはそれが自分の被害につながることもある。よりよい社会を築いていくためには、周囲の人の注意を素直に聞き、節度をもって生活していくことが大切となる。よって、周囲の人々にも関心を向け、自制心をもって行動できるようにさせていくことが必要となる。1年生のこの段階においては、周りを気にかけずに思うままに行動したことが、周りの人を困らせる場合もあることに気付かないことが多い。そこで、自分のわがままな振る舞いが他人に迷惑をかけることについて考えさせることが大切であると考え、本題材を設定した。

(2) 児童の実態について (男子14名 女子15名 計29名 調査人数29名)

① 学校で、自分勝手なことをしていますか。			
はい	2人	いいえ	27人
② それはどうしてですか。理由を書きましょう。(複数回答)			
はい			
・無回答			
いいえ			
・いい子だから	11人	・おこられるから	3人
・先生の話聞いているから	3人	・友だちがいなくなるから	2人
・自分が嫌な気持ちになるから		・我慢しているから	
・ちゃんとやっているから		・みんながさびしくなる	
・みんなが嫌な気持ちになるから		・友だちができなくなるから	
・みんなの前で恥ずかしくなるから		・友だちがいなくなるから	
・いい子になりたいから		・人がかわいそうだから	
・したことがない		・無回答	各1人

【考察】

本学級の児童は、入学当初の不安や緊張が少なくなり、明るく友だちに接し、友だちの輪を広げつつある。学校生活にもだいぶ慣れ、身の回りの整頓や一日の行動パターンも自分で把握できるようになってきた。係や当番活動では、仕事内容を覚えるために教師に何度も聞きながら必死に頑張る児童がいる一方、声をかけられているのにもかかわらず、遊びなど自分の欲求を抑えることができないため、当番活動は後回しになってしまう児童もいる。休み時間や清掃活動などの場面でも、忠告されても自分のことだけを考えて行動した結果、学級全体または友だちの思いに気付いていないことも少なくない。

1年生の児童は、学校生活に慣れてくると、善悪の判断をせずに身勝手な行動をとって、他人に危険なことをしたり、周囲の人が困ってしまったりすることがある。児童は、自由な行動と身勝手な行動の違いがよくわからず、身勝手な行動が、他人に迷惑をかけたか、自らの身を危険にさらしたりすることを十分に想像することができない。実態調査をみると、ほとんどの児童が自分勝手なことをしていないと回答した。その理由をみると、自分はいい子だから、したことはない、きちんとやっている、と自分が自分勝手なことをしていることに全く気付いていない。気付いていないということは、周囲の人に迷惑をかけている時もあるということにも気付いていないということになる。

そこで、自由に行動することの大切さは認めつつも、それが「わがまま」にならないようにするためにはどのようなことに気を付ける必要があるかを考えさせていくことが大切になる。また、周囲の人から注意をされた際には、それを素直にきき入れ、自分の考えや行動を改めていこうとする気持ちをもたせたい。それが自分もみんなも気持ちよく幸せに生活することにつながることに気付かせ、自制心をもって行動できるような態度を高めていきたい。

(3) 教材について

本教材は、畑の外にまでつるを伸ばしたかぼちゃが、みつばちやすいか、こいぬに注意をされるがそれを聞き入れず、その結果、走ってきた車につるをひかれ、つるが切れてしまい涙を流すという内容である。ぐんぐん伸びることは、生きるために大切であることを認めたくて、周りの忠告をきけなかったかぼちゃの心の弱さに気づき、「よりよく生きる」ためにはどうすればよいかと考えを高めていくことができる教材である。

涙を流して泣いているかぼちゃを通して、自分がどうすれば自分にとっても周りの人にとってもよりよいことなのかを考え、周りの人の注意をよく聞いて、わがままとしないようにする大切さに気付かせたい。

(4) 指導観

本時の授業では、わがままたかぼちゃの心情に共感させ、これまでの生活経験と重ね合わせながら、ねらいにかかわる価値について考えていけるよう、次のような手立てを考えた。

展開前半では、資料への関心を高めさせるために紙芝居を使い、場面を分割して読み進めていく。そして、子ども達が自分の事として考えることができるように、「もし自分がかぼちゃだったら、つるを伸ばしますか。」と投げかける。これにより、登場人物と自分を重ね合わせ、資

料に入り込み、自主的に考えていくことができるのではないと思われる。後半は、かぼちゃの行動の問題点を見つけ出し、かぼちゃに「なんと言ってあげますか。」というアドバイスを考えさせる。児童は様々なアドバイスを考えると思われるが、自分だけが我慢するのではなく、自分も幸せ相手も幸せという「win-win」な意見が出されたときには、そのよさについて問い返しながらかじくりと考えさせたい。

仮説について

- | |
|--|
| 1 児童相互の積極的な関わりを生み出すような指導方法を工夫すれば、価値について主体的に考え議論し、自己のよりよい生き方について考えが深まるであろう。 |
|--|

(1) 発問の工夫

①中心発問について

中心発問を「泣いているかぼちゃに、なんと言ってあげますか。」とする。つるを伸ばさなければよいという一方的な規制ではなく、かぼちゃもみんなもいい気持ちになる方法を考えることができるようにしたい。

②議論のポイント

児童が主題について自分事として考えることができるように、「もし自分がかぼちゃだったらどうする？」という発問をする。登場人物と自分を重ね合わせ、資料に入り込み、自主的に考えていくことができるようにする。また、かぼちゃは、つるを伸ばさないと成長できなくなり、笑顔ではいられなくなるという発問をすることで、かぼちゃの事も周りの事も考えることができ、よりよい解決策が児童から出てくるのではないと思われる。

(2) 言語活動の充実

自分の考えを自信をもって発言できるように、全体での話し合いの前に、複数の友だちと意見を交流する。たくさんの考えを聞くことで、自信が付き、和やかな雰囲気となり、話し合いでは進んで発言しようと意欲が高まるのではないかと考える。

- | |
|--|
| 2 児童の変容の読み取りを積み重ねて評価していけば、自らの成長を実感し、道徳的な実践意欲が向上するであろう。 |
|--|

○ねらいに沿った授業評価の観点

- ・人の忠告を素直に聞き、わがままな気持ちを抑えて生活することは大切である。そこで授業前に普段の生活の様子を観察し、わがままなどの場面に遭遇した時に声をかけ、児童の実態を把握しておく。そして授業後に児童が普段の生活から振り返ることができるように、生活場面の例（給食、掃除、休み時間、家など）をいくつか挙げて、振り返られるようにする。自分のことだけでなく、周りの人のことも考えて行動することができる、みんなが気持ちよく過ごすことができるということを実感させ、生活の中に生かす様子を見ていきたい。

3 本時の指導

(1) ねらい

人の忠告を素直に聞き、わがままな気持ちを抑えて生活しようとする心情を育てる。


(2) 展開

過程	時配	学習活動と主たる発問と予想される児童の反応	指導上の留意点 ★評価	資料
導入	5分	<p>1 人に注意されたが、素直に聞けなかったことを発表する。</p> <p>○家族や友だち、先生にどんなことで注意されたことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題をしなさいといわれた。 ・廊下を走って注意された。 <p>○それはどうしてですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面倒くさかった。 ・急いで外にいきたくったから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の学校生活や家庭生活を振り返らせ、ねらいへと方向づけをする。 ・注意された人、注意している人がどんな顔になっているか、想起させる。 	絵文字
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>みんなが、にこにこがおになるには、どうしたらよいだろうか。</p> </div>				
展開	10分	<p>2 教材「かぼちゃのつる」の前半(かぼちゃが、こいぬに注意されたところまで)を聞き、話し合う。</p> <p>○もし自分がかぼちゃだったらつるを伸ばしますか。</p> <p><伸ばす></p> <ul style="list-style-type: none"> ・つるを伸ばすのは楽しいから。 ・注意されても怖くないから。 ・伸ばさないと大きくなるから。 <p><伸ばさない></p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなに注意されたから。 ・他人の畑や道に伸ばしてはいけないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居の1枚目(つるを伸ばして行く所)で、つるを伸ばさないと大きく成長できない話をする。 ・問題を自分のこととして考えるために、もし自分だったらどのような行動をとるか、その理由も含めて考えさせる。 ・「つるを伸ばさない」という発言しか出てこない場合、「かぼちゃさん、つるを伸ばせないと大きくなれないから、笑顔になれないんじゃないの。」と投げかけ、つるを伸ばさないと成長できないことにも再度気付かせ、よりよい解決策の探求に進むようにする。 	紙芝居 ワークシート




	15分	<p>3 教材の後半を聞く。</p> <p>◎泣いているかぼちやに、なんと言っておあげますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また伸ばせばいいよ。 (win・lose→周りが迷惑) ・もうつるを伸ばしてはだめだよ。 (lose・win→自分が困る場合がある) ・自分の畑で伸ばした方がいいよ。 (win・win→みんなが幸せになる) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに自分の考えを書く。 ・児童が考えにくい場合は、「かぼちやもみんなもいい気持ちになる方法、にこにこ顔になる方法を考えましょう。」という補助発問を行う。 ・書くことが苦手な児童は、話し合いで共感できたことを書いてもよいと助言する。 ・児童が多様な価値に触れることができるように3～4人で交流する時間を設けた後、全体で交流する場を設ける。 ・自分の意見と友だちの意見を比べながら聞くことができるように、声をかける。 ★友だちの考えに触れ、わがままをしないためにはどうすればよいかを考えることができるか。 (ワークシート・発表) 	ワークシート
	10分	<p>4 本時の課題を振り返る。</p> <p>○みんながにこにこ顔になるためには、どうしたらいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの人に注意されたら、しっかりと聞く。 ・わがままをすると、周りの人が困るし、自分に罰があるかもしれない。 ・自分のことだけでなく、周りの人のことも考える。友だちの嫌がることをしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居のかぼちやの顔を見ながら、場面ごとにどうしたらよかったのか、確認していく。 	紙芝居 絵文字
終末	5分	<p>5 本時の学習を振り返り、今後の生活に生かせるようにする。(スキルトレーニングを行う。)</p> <p>○みつばちやすいか、犬に注意された時、かぼち</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居を振り返り、かぼ 	紙芝居

	<p>やはなんと答えれば，みんながにこにこ顔でいることができますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごめんね。自分の畑で伸ばすよ。 ・気が付かなくてごめんね。教えてくれてありがとう。 	<p>ちゃはどう答えればみんながにこにこ顔でいることができるかを考える。</p> <p>★人に忠告された時，素直に聞くと，自分も周りの人も気持ちよく生活できることに気付くことができたか。 (発表)</p>	
--	--	--	--

(3) 板書計画

かぼちやのつる  みんながにこにこがおになるにはどうしたらよいだろうか

・しゅくだいをしない
・ろうかをはしった
↓
・めんどくさい
・いそぎたかった

もし，じぶんがかぼちやだったら，つるをのぼしますか。

<のぼす>


- ・たのしいから
- ・おおきくなれないから

<のぼさない>

- ・ちゅういされたから
- ・ひとのはたけにはいって
はだめだから

ないているかぼちやに，なん
とってあげますか。

- ・またのぼせばいいよ。
- ・のぼさないほうがいいよ。
- ・じぶんのはたけでのぼしたほうがいいよ。



○まわりのひとにちゅういされたら，
しっかりときく。
○わがままをすると，まわりのひとが
こまってしまう。
○まわりのひとのこともかんがえる。
○いやがることをしない。

第3学年1組 道徳科学習指導案

指導者 沼田 和江

- 1 主題名 つながる命 D- (18) 生命の尊さ
 (教材名 「ヌチヌグスージ (いのちのまつり)」 出典 東京書籍 新しいどうとく3)

2 主題設定の理由

(1) 価値について

本主題は、第3学年及び第4学年の内容項目D- (18) 「生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。」を意図したものである。これは第1学年及び第2学年のD- (17) 「生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。」を受け、さらに第5学年及び第6学年のD- (19) 「生命が多くの生命のつながりの中にあるかけがえのないものであることを理解し、生命を尊重すること」とつながっている。

今、毎日のように命が奪われる報道がされ、児童は少なからずそういった情報に触れ、生きている。その中で「生きる力」を育むことは道徳教育においても強く求められている。生きる力は生命が大切にされてこそ初めて成り立つものであり、道徳的価値の基盤となるものである。生命の尊さを知り、命あるものを大切にすることの心情を育てることは急務であるといえる。

「命は大切なもの」という概念は、この時期のほとんどの児童が認識しているが、生活の中でそれを実感する機会はあまりない。さらに命はどうつながっているのか命のルーツを感じている児童は少ない。命は様々な側面から捉えることができるが、ここでは自分との関わりとして、命は受け継がれ引き継がれていくもの、そして様々な人に支えられて生かされていくものであるという「連続性」に着目して、命の尊さを考えさせる。併せて、自分と同じようにすべての命が尊いものであり、大切にしていこうという心情と確かな思いを三年生の今の段階から育てていきたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態について (男子16名 女子20名 計36名 調査人数 36名)

① いのちはどんなものだと思いますか。	
・大切なもの	22名
説明 (一番大切、生きるために、世界一、体を動かすために、一つしかない、同じようだけど一つ一つ違う大切にしないと死んでしまうなど)	
・生きているときにあるもの、生きるためにあるもの	8名
・その他 (人を動かすもの、人間の心、みんなを守ってくれる、やさしいもの、友達を助けるもの)	各1名
② いのちはどこから来たと思いますか。	
・お母さんのおなか	14名
・天、空、天国	6名
・自分の体、心や気持ち	各4名
・家族	2名

・その他（愛情、遙か昔、人間が生まれたところ、生まれたとき、食べ物 上から） 各1名

③ いのちは、いくつあると思いますか。

・一つ 31名

（一人一つしかないから 5名、たくさんあったら死んでも生きてることになる 2名

一つの命で体を動かしているから、いっぱいあったら全く同じ人がいることになる、

ありすぎて困るから、二つあったら大切じゃない、命は自分の真ん中にあるから

1回だけ生まれたから、二つ以上だったら入る場所がないから、胸の他に命がついている

ところはないから、なくすと生きられないから、もう1個あったらいいけどないから、生き返れないから

生んでくれているママは自分を大切に思っているはずだから、一人一人が違う命だから

一つしかないから守り続ける、心臓という読み方もあるけど命はいのちという読み方だから、

事件や危険などときによけるから、二こあったらおかしい、心臓と命は一緒、二つあったら二人)

・二つ、三つ 各1名

【考察】

本学級ではほとんどの児童が毎日楽しく通学し、学習や運動のできることを当たり前のこととして感じている。命の尊さや健康の大切さについても言葉では理解している。9月に入り国語科で学習した「わすれられないおくりもの」では、あなぐまの単なる現実的な死による悲しみではなく、あなぐまの死後も続く、森の動物たちとの温かい心のつながりに、心を打たれていた。しかし普段の生活の様子を見ると、精神的に幼い児童が多い。自分で判断して行動すべきことを親や友達に依存したり、トラブルがあると他人のせいにして、無関係を装ったりすることも見られる。子供同士の関係の中で、自分も、友達も大切であるとは感じているが、行動の仕方を見ると自分中心で思いやりのない行動も多い。

アンケートでは命について児童がどのような認識をしているのかを調査した。

①と③からは、命は一つしかなく大切なものであるとほとんどの児童が考えていることがわかる。命がないと生きられないことや人は生まれたら死ぬこと、死んだら二度と生き返らないなど命の有限性や特殊性についてはよく理解されている。②の命はどこからきたかという発問では、母親から生まれてきたと言う回答がやはり多く、先祖に思いを馳せている児童はほとんどいない。

以上のようなことから、児童は命ということに関して、自分や家族の命については考えているが、過去から途切れることなく生命が続いてきたことによって、自分が今あり、さらにこれからの未来へとつながっていく連続性については、考えていないというよりも、全く知らないことがわかった。そこで児童に命についての価値を広げ、新しい視点を持たせるため、自分との関わりとして捉えやすい「連続性」に着目して生命の大切さについて考えさせたい。

(3) 教材について

本教材の「ヌチヌグスージ」は沖縄で行われている命の祭りの意味である。先祖の墓の前で、感謝の気持ちを歌や踊りで伝える。そこでコウちゃんは、自分の命が宇宙の始まりから続いてきていること、自分の命は先祖の命でもあることを知る。自分の命が大勢のご先祖様から命を受け

継いだものであることを知ったコウちゃんに共感させることで生命の「連続性」について自分との関わりの中で考えることができると思われる。また「いのちをありがとう」と言った感謝の言葉から命の尊さを感じ取るねらいに迫っていきたい。

(4) 指導観

本教材は命の大切さについて、命の連続性ということから考えさせていきたい。今ある自分の命は、遠い祖先から祖父母、父母、そして自分へと受け継がれてきたものであり、その受け継いだ命は、未来にもつながっていくことの不思議さや雄大さに気付かせる。自分の祖先の誰が途切れてしまっても今の自分がないこと、そして自分の命が終わっても命は続いていく。命を大切に生きていくということは、幸せに生きる土台となるものであろう。「命ってすごい」という思いが感謝の気持ちになり、お互いの命、生き方を尊重し、よりよく生きる気持ちをもつことに、ここでの学習がどこかでつながってほしいと考える。たくさんの命がつながる未来を築こうとする姿勢に、いつかつながるものになってほしい。

次に、一人一人が感動したことを自由に話し、交流することのできる場を、大切にしていきたいと考えている。その際できるだけ多くの友達と話したり、感動を共有したりできるよう、小グループでの交流の仕方を工夫していきたい。本教材は、議論するのではなく、新たに知ったり気付いたりしたこと、命についての考えを広げ、深めていくものである。児童は活発に友達と交流していくことで自信がもて、それが喜びにもつながるであろう。これまでの話し合いの仕方に捉われず自由な雰囲気の中で話し合わせたい。

仮説について

1 児童相互の積極的な関わりを生み出すような指導方法を工夫すれば、価値について主体的に考え議論し、自己のよりよい生き方について考えが深まるであろう。

(1) 発問の工夫

①中心発問について

主人公のコウちゃんが「いのちをありがとう」と言ったときの気持ちを考えることで、ねらいに迫りたい。「いのちをありがとう」の中に感じ取ることのできる、遠い祖先から受け継がれてきた生命の不思議さ、これからの生き方にもつながる生きる喜び等、様々な感動がこの言葉の中に含まれているであろう。この気持ちを考えることによって、コウちゃんの中に自分を投影させていくことができると考える。

②議論のポイント

本教材では議論ではなく命の大切さや尊さについて、新しい視点から考えた一人一人の思いを紹介し、共有する時間を十分に取って、話しやすいような場を工夫する。生活や自分の中で命を実感することは難しいが、それまで自分が捉えてきた生命についての考えに新たな発見をしたり、深めたり、広めたりすることでこれからの明るい、前向きな生き方に少しでもつながる雰囲気にしていきたい。

(2) 言語活動の充実

教材の内容理解には教科書だけでなく、絵本の読み聞かせで教材提示をする。特にコウちゃんが生

まれた先祖をたどる場面は、コウちゃんの考えや思いに共感できるようスクリーンに映し出し、その壮大さを理解させたい。

また、円卓状の段ボールの板を使い、テーブルにして自分の感じたことを書き、回してさらに友達
の考えに自由につなげ、書いたり話し合ったりしていく。一つの丸いテーブルを囲むことで、つなが
る命を意識し、お互いに安心して素直に伝え合うことができると思われる。そこから考えを共有したり
、広げたりしていきたい。

2 児童の変容の見取りを積み重ねて評価していけば、自らの成長を実感し、道徳的な実践意欲が向上
するであろう。

○ねらいに沿った授業評価の観点

学習指導要領の生命の尊さという内容項目は「生命の尊さを知り…」となっている。知っているよう
でよくわからない、目に見えない、命について知るということは知識理解として知るものではなく、感
じ取るものであると考える。いかに教材から感銘を受け、命について感じ取ることができたのか、自分
の中に命について深く考える機会を得たのか。ノートだけでなく、言葉ではうまく表現できなくても、
発言や表情などからも評価したい。「命はすごい」「命をありがとう」の中身を表すものを児童の素直
な言葉や円卓に書かれた中から見つけていきたい。

3 本時の指導

(1) ねらい

生命は過去からつながっていることに気づき、命のつながりについて話し合うことを通して、生
命を大切にしようとする道徳的心情を育てる。

(1) 展開

過程	時配	学習活動と主たる発問・ 予想される児童の反応	支援及び指導上の留意点 ★評価	資料
導入	5分	1 命の学習への興味・関心を高める。 ○みんなが命のついて思ったことから考えよ う。 ・命は <input type="text"/> 大切なもの 一つしかない 死んだら生き返らない	・事前のアンケートやイメージ マップから導き出した命の学 習課題を提示する。	アンケート 結果 沖縄の 写真
		<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> どうしていのちは大切なのだろう </div> ○この写真は何をしているところでしょう。 ・楽しそうにみんなでご飯食べているよ。 ・お花見みたいだね。 ・おじいちゃんやおばあちゃんもいるね。	・沖縄のお墓の前の写真（お盆 の頃）を見て話し合わせ、沖 縄の話を聞く。	

展開	5分	<p>2 教材文「ヌチヌグスージ」を聞き、話し合う。</p> <p>○ご先祖様を数え始めたコウちゃんと一緒に数えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう数えられないよ。 ・ずっと続けね。 ・すごい数だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヌチヌグスージは沖縄地方の方言で「命の祭り」という意味であることを伝える。 ・絵本による読み聞かせを行う。 ・「もう数えられないよ」のあとを考えさせる。 ・ご先祖様が大勢描かれた場面絵を提示し、大勢のご先祖様があってコウちゃんがいることを視覚的に捉えられるようにする。 	場面絵
	10分	<p>3 後半を読み、話し合う。</p> <p>○コウちゃんはどんな思いで「ぼくのいのちってすごいだね」と言ったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの人のおかげでぼくが生まれた。 ・ご先祖様のだれが欠けてもぼくはいない。 ・ぼくの命はたくさんの命とつながっている。 ・これからもつながっていくのかな。 <p>◎「いのちをありがとう」と言ったコウちゃんはどうな気持ちなのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命をつないでくれてありがとう。 ・ぼくも命をつないでいくね。 ・これからは命を大切にしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文後半を読み、児童が疑問に思ったことを話し合いの中心にする。 ・グループで話し合った後全体で話し合う。自分の考えをもち、お互いの意見に対して共感し合う雰囲気大切にす る。 ★たくさんのご先祖様から命が受け継がれてきたことに気付いたコウちゃんの気持ちを考えることができたか。(発言) ・命のつながりに感謝するコウちゃんの気持ちに共感させる。 ・自分の後にも命が続いていくことに気付けない時には、「みんなのところで命は終わっちゃうの？」という切り返しの発問をする。 ・命のつながりへの気付きを通して、命の大切さを感じた気持ちを捉えさせる。 ・概念として捉えにくい児童には吹き出しを使ってコウちゃんの話言葉として考えさせる。 	

	20分	<p>4 自己を見つめ、命に対しての考えを深める。</p> <p>○命の大切さについて考えたことを話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご先祖様に感謝したい。 ・ずっと命がつながっているから大切にしていってほしい。 ・ご先祖様がいたからこそ今を生きていられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・円卓形の模造紙に考えたことを話しながら自由に書かせよう。 ・黒板や周りに貼って見合い、交流する。 <p>★命のつながりや命の尊さについて自分の考えを持つことができたか。(発言・ノート)</p>	円卓ボード
終末	5分	<p>5 ゲストティーチャーの話聞く。</p> <p>6 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習をして思ったことや分かったことを書きましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーから「生きること」のメッセージを聴いて、温かい雰囲気で行われるようにする。 ・自分のこの後の命のつながりにも思いを馳せ、前向きに明るく生きる気持ちで行われるようにする。 <p>★命のつながりに気づき、自分の命や人の命を大切にしようという気持ちをもったか。(発言・ノート)</p>	

(3) 板書計画

11月14日 第 回 ヌチヌグスージ どうしていのちは大切なのだろう

コウちゃん

命は

- ・大切なもの
- ・一つしかない
- ・生きているときにあるもの

沖縄のお墓の写真
ヌチヌグスージ
いのちのまつり

場面絵 ぼくのいのちってすごいんだね

たくさんの人とつながっている。
だれかがいなかったら
ぼくはいないんだ。

場面絵 いのちをありがとう 😊

いのちをつないでくれたんだね
いのちを大切にしよう

みんなではなし
あってみよう

- 1 主題名 豊かな人間関係をつくる B- (10) 友情・信頼
(教材名「ロレンゾの友達」出典 教育出版 小学道徳5)

2 主題設定の理由

(1) 価値について

本主題は、高学年内容項目 B-(10)「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。」である。これは、第3、4学年の「友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。」を発展させたものであり、中学校の「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。」につながっていく。

人は社会の中で多くの人や仲間とのかかわりをもって生きている。望ましい人間関係を築いていくためには、お互いの立場や気持ちを考え合い、信頼し合い、助け合おうとすることが大切になってくる。この時期の児童は、自我が確立してくるにしたがって、真の友情を求めるようになる。友情を深めるためには、互いの良さを認め合ったり、互いの考えを尊重し合ったりすることが大切であることは分かっている。しかし、一方では自分の考えと異なった場合になかなか相手を受け入れられなかったり、相手がどう思うか心配で正しい判断をしていても伝えることができなかつたりすることも多い。そこで、真の友情とは、信頼を基盤としてお互いが本当に相手のためになるにはどうすべきかを考え、行動することが大切であることを自覚し、高め合える友達関係を築いていこうとする態度を養わせたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態 (男子18名 女子18名 計36名 調査人数 36名)

①あなたは、自然教室で友情を深められたと思いますか。

はい 36人 いいえ 0人

《理由》 ※重複回答あり

- | | | | |
|--|-----|--------------|-----|
| ・助け合ったから。 | 19人 | ・ずっと一緒にいたから。 | 10人 |
| ・たくさん話したから。 | 5人 | ・笑い合ったから。 | 2人 |
| ・仲良くできたから、お互いのことを知れたから、
意見を言い合えたから、友達のことを考えて行動できたから | 各1人 | | |

②あなたの親友がテストでカンニングをしているといううわさ話を聞きました。

あなたは、親友に対してどのような行動をとりますか。

- ・注意する 22人 (うち1人 信じるが、念のために注意する。)
- ・それとなく親友に聞く。 8人
- ・何もしない 6人

【考察】

本学級の児童は全体的に幼く、きまりをしっかり守って生活しようとする真面目な児童が多い。大きなトラブルこそ起こさないが、友達同士のつながりが希薄で、ちょっとしたことで相手を傷つけてしまったり、友達のために行動できたりする児童は少ない。自分の気持ちを優先してしまう児童が多く、係活動や当番活動などを見ても、自分本位な行動が目立ち、周囲の存在を意識した行動がとれる児童は少ない。また、児童の多くは、思っていることがあっても自分の思いを伝えられない児童が多い。

実態調査の結果①から、1泊2日の自然教室を通して、全員が友情を深められたと感じていることが分かる。様々な活動を行うにあたり、互いに声を掛け合ったり、確認し合ったりしたことで心が通じ合い、同じ目的に向かって協力し合えたことが子供たちにとって友情が深まったと感じられたのではないと思われる。また、時間を長く共にしたことで友情が深まったと感じた児童も多くなることが分かった。普段の生活では一緒に過ごすことのできない時間（放課後から登校時間まで）を共有したことで、友達との関係がより特別なものとなり、友情が深まったと感じられたのではないかと考えられる。さらに、教材と類似した内容の調査②からは、不正をしてしまった場合には、親友であってもだめなものだめと正すことが大切だと考えている児童が学級の多数を占めていることが分かった。これは、多くの児童達の中にある、どんな時でもきまりは守らなくてはいけない、という考えによるものだと考えられる。親友のことをどこまで考えられているかが問題となるが、普段の様子から児童自身の価値観が大きく影響していると考えられる。

以上のような結果から、相手の状況をしっかり踏まえ、本当に相手のためになるにはどうすべきか、そして友達にとって最善の方法を考えて行動することの大切さに気づき、互いに高め合える友達関係を築かせていきたい。

(3) 教材について

徐々に帰京する友達のロレンゾによからぬうわさがあることを知り、アンドレ、サバイユ、ニコライの3人は、友達に対してどのように関わればよいか悩み、葛藤する。3人のうちの誰の考え方が正しいのかということではなく、それぞれ葛藤しながらもロレンゾのことを真剣に考えているところに注目させ、友達としてどうするべきかを考えさせていきたい。そして、「約束の日」の翌日に無罪だったロレンゾが3人のもとに現れるが、3人で話し合ったことをロレンゾに話せなかったことから、友達に対しての気持ちや、改めてロレンゾへの対応について考え込む3人の葛藤場面を通して、友情とは、相手のことを信頼し、1番に考えることだということに気付かせたい。

(4) 指導観

学級の実態から、共に多くの時間を過ごし助け合ったことで友情を深められたと感じている児童が多くなることが分かった。アンケートの結果を提示し、宿泊の機会がないと友情は深められないのかという問いかけをし、さらに友情を深めるために大切なことは何かを意欲的に考えられるようにしていく。

次に、本教材の登場人物は児童にとって聞き馴染みがなく、誰がどの考えであったか混同してしまう可能性があるため、本時では人物の絵を使ってアンドレ、サバイユ、ニコライの考えを明確に提示し、誰がどの意見を言っているのかを把握させる。人物絵とその意見を黒板に提示することで話し合いの際に混乱することなく自信をもって話し合いに臨めるようにしたい。

そして、自分の中にある価値観で考えるのではなく、相手意識をもってどうするべきか議論に臨ませることが重要になってくる。調査の結果から、友達であっても不正は正すべきだと考えている児童が多いが、それが相手のこの後、未来のことまで見据えたうえでの判断なのかどうか、相手のことを親身になって考えての行動なのかが大切になる。友達関係は、その場限りではないことや今後もずっと続いていく関係を考えて、一人一人が課題ともしっかり向き合うことで、相手のことを考えた行動とはどのようなことなのかを考えさせたい。

これらの手立てを通して、友情を深めるためには何が必要なのかを考え、友達にとって最善の方法を考えて行動することの大切さに気づき、相手のことを考え、相手の身になって関わっていかうとする態度を育ませたい。

仮説について

1 児童相互の積極的な関わりを生み出すような指導方法を工夫すれば、価値について主体的に考え議論し、自己のよりよい生き方について考えが深まるだろう。

(1) 発問の工夫

①中心発問について

ロレンゾのことを真剣に考え、どうするべきかを話し合ったはずの3人が、なぜ木の下で話し合ったことをロレンゾに言えなかったのかを考え、話し合う。議論の場面で、3人の考えに自我関与しながら友達のことを考えてきたはずなのに、3人はなぜ自分たちの考えを伝えられなかったのか、ロレンゾに対する3人の気持ちの奥深くまでじっくり考えることで、友情を築くうえで大切にしなければならないことに気付かせたい。

②議論のポイント

3人の考えに対して、自分ならどの意見に賛成か、自分だったらどうするかという視点を入れることでしっかり自我関与させ、友達のことを想うそれぞれの考えについて話し合う。3人のそれぞれの意見に対して理由を述べさせ、相対する考えの登場人物を支持する児童に切り返しの発問をしたり、問い返しの発問をしたりして揺さぶりをかけることでより深く考えさせ、3人の主張は異なっているとしても、ロレンゾのことを真剣に考えていることを捉えさせ、中心発問につなげるようにしていく。

(2) 言語活動の充実

話し合いの際には、意思をはっきりさせるために「立体意思表示札」を用いて話し合いを進めていく。同じ意見の友達の存在を確認することで、自分の判断に自信をもって話し合いに参加できるようにさせたい。考えがうまくまとまらなかった場合には、同じ意見の友達に助言してもらうための手立てとしても、活用させたい。また、異なった考えの友達の意見を聴くことで、自分の意見と同じところや違うところを意識させ、より多くの発言ができるようにさせていきたい。

2 児童の変容の見取りを積み重ねて評価していけば、自らの成長を実感し、道徳的な実践意欲が向上するであろう。

○ねらいに沿った授業評価の観点

中心発問では、友情を築くうえで大切にしなければならないことを考えさせる。事前にとったアンケートから友情を築くために必要だと考えていたことから、さらに考えを深められるように展開

部の終盤で同じ問いかけを行う。本当に相手のためになるにはどうすべきかを考え、時には友達のために厳しい判断をすることが大切であることに気づき、友情を深めていくための新たな視点をもてたかどうか、児童の変容を評価していく。

3 本時の指導

(1) ねらい

3人それぞれの考えについて話し合うことを通して、友情を深めるためには何が必要なのかを考え、相手のことを考え、相手の身になって関わっていかうとする心情を育てる。

(2) 展開

過程	時配	学習活動と主たる発問・予想される児童の反応	指導上の留意点 ★評価	資料
導入	3分	1 アンケートを振り返り、友情を深めていくために必要なことについて考えることを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然教室を振り返り、友情とはどのように築かれ、深められたのかを振り返らせる。 ・よりよい関係を築いていくために必要なことを、積極的に学んでいこうとする意欲をもてるようにする。 	
さらに友情を深めるために、大切なことはなんだろう。				
展開	25分	<p>2 教材「ロレンソの友達」の内容を確認し、話し合う。</p> <p>○3人の考えはどのようなものでしたか。</p> <p><アンドレ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お金をもたせて逃がす。 <p><サバイユ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自首を勧めるが、本人が認めなければ逃がす。 <p><ニコライ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自首を勧め、警察に連絡する。 <p>○自分ならどの意見に賛成ですか。</p> <p><アンドレ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわいそう。 ・逮捕させたくない。 ・信じている。 ・自分が後悔するかもしれない。 <p><サバイユ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で選ばせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文は事前に読んでおき、場面の状況を抑え、3人の考えを確認する。 ・誰がどんな考えか混同しないよう掲示物で確認できるようにする。 ・3人のうち、どの立場に賛成かを選び、根拠を話し合う。 ・立体意思表示札を用いて考えを表すことで、自分の立場を明確にし、話し合いを活発に行えるようにする。 ・「逃がしたら自分も罪人になるのではないか」「警察に知ら 	<p>場面絵</p> <p>立体意思表示札</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・自分が悪者にはなりたくない。 ・話せば自首してくれそう。 ・共犯になるかもしれない。 <p><ニコライ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・悪いことをしたら悪いというべき。 ・今まで通り関われなくなる。 ・警察に解決してもらえばいい。 ・友達として無責任。 	<p>せることは友達を裏切ることになるのではないか」など問い返しをすることで考えを揺さぶり、より深く考えられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「友達を信じている」「話を聞いてあげる」「悪いことは悪いという」など友達のことを想うそれぞれの考えをしっかりと押さえられるようにする。 ・それぞれ考え方は違うがロレンゾのためを思っているという点が共通しているということに気づかせる。 ・話し合いの状況を見て「どの意見が一番良いと思うか。」と問うことで、相手のことを真剣に思えば思うほど、簡単には決められないということに気付かせる。 ・自分の考えをノートに簡単にまとめた後、近くの席の2~3人で話し合わせ、全体で交流する。 ・書くことが苦手な児童には、「心配していたら正直に言えたはず」であることを示唆し、なぜ言えなかったのかを考えられるように助言する。 <p>★話し合いから、友達として大切なことはなにか考えることができたか。(発表・ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習を通して、友情について考えたことをまとめさせる。 	
7分	◎木の下で話し合ったことを言えなかったのはなぜだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・後ろめたい気持ちがあったから ・噂を信じてロレンゾのことを疑ったから。 ・3人ともロレンゾのことを真剣に考えていなかったから。 ・真剣に考えていたけど噂に流されてしまったから。 		
5分	○友情を深めていくために必要なことは何だろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを一番に考える。 ・悪いことは悪いと言い合う。 ・友達のことを疑ったりせずに信じる。 		
終末	5分	3 今日学習から考えたことをまとめ、詩「友だち」を聞く。		詩 「友だち」

	<p>○今日の学習を振り返り、考えたことをノートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友情をさらに深めるために必要だと感じたことやこれからの自分の意識の仕方について考えたことをノートにまとめる。 ・詩「友だち」を聞き、これまでとこれからの友達との関係を考えられるようにする。 <p>★本当の友達とは何かについて自分なりの考えをノートに書くことができたか。</p> <p>(ノート・発表)</p>
--	----------------------------------	--

(3) 板書計画

6月20日 第 回 ロレンゾの友達

さらに友情を深めるために、大切なことはなんだろう。

「友情」は深まった？

- ・助け合ったから。
- ・ずっと一緒にいたから。
- ・たくさん話したから。
- ・笑い合ったから。
- ・仲良くできたから。
- ・お互いのことを知れたから。
- ・意見を言い合えたから。
- ・友達のことを考えて行動できたから。

サバイユ

自主をすすめる

- ・自分で選べたい。
- ・自分が悪者にはなりたくない。
- ・話せば自首してくれそう。
- ・共犯になるかもしれない。

ニコライ

通報する

- ・悪いことをしたら悪いというべき。
- ・今まで通り困われなくなる。
- ・警察に解決してもらえばいい。
- ・友達として無責任。

アンドレ

逃がす

- ・かわいそう。
- ・遠慮させたくない。
- ・信じている。
- ・自分が後悔するかもしれない。

ロレンゾのことを想っている

◎なぜ、木の下でのことを言えなかったのだろう。

- ・後ろめたい気持ちがあったから
- ・噂を信じてロレンゾのことを疑ったから。
- ・3人ともロレンゾのことを真剣に考えていなかったから。
- ・真剣に考えていたけど噂に流されてしまったから。

友情を深めていくために必要なことはなんだろう。

- ・相手のことを一番に考える。
- ・悪いことは悪いと言い合う。
- ・友達のことを疑ったりせずに信じる。

《詩「友だち」》

わたしは友だち	その友だちの	わたしより一生懸命になる	わたしのことを	ときどき	よく知っている	わたしより	わたしのことを	「友だち」	関 洋子
---------	--------	--------------	---------	------	---------	-------	---------	-------	------

5年生「ロレンゾの友達」 授業記録

(事前準備として、子どもたちは前日に教材文をすでに読んでいる。また、登場人物3人の考えをノートにまとめ終えている。)

T 自然教室で友情を深められましたか？

はい 36人 いいえ 0人

S 助け合ったから。

ずっと一緒にいたから。

たくさん話したから。

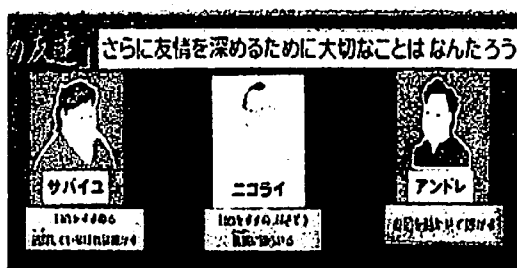
仲良くできたから。

お互いのことを知れたから。

友達のことを考えて行動できたから。

T「自然教室で深まった友情を、さらに深めるにはどうすればいいのかな？ 今日のテーマをノートに書き、終わったらノートを閉じてください」

T「昨日みなさんに『ロレンゾの友達』を読んでもらいました。この物語の中には、ロレンゾの友達が3人でできましたね。誰が出てきたか覚えてる？」



S「アンドレ」「サバイユ」「ニコライ」

(この教材の登場人物は名前が全員カタカナで、子どもにとって聞き馴染みがない。誰がどの考えであったか混同するのを防ぐため、3人の名前と人物絵を黒板に掲示した。)

T「そうですね。では、3人の意見の中で自分が賛成できるものを選んで、先ほど配った札で表してください」

(三角柱のかたちをした「立体意思表示札」。側面3面の色が白・青・赤に分かれている。今回の授業では、アンドレが青、サバイユが赤、ニコライを白に振り分けた。)

T 「何色が多いかな？赤が一番多そうだね。白が少ないかな。では、なぜそう思ったのか理由を教えてくださいかな？」

(以下、アンドレを選んだ子どもを「アンドレ派」、サバイユを選んだ子どもを「サバイユ派」、ニコライを選んだ子どもを「ニコライ派」と表記)

S アンドレ派「お金を持たせて逃がすのはよくないと分かっているけれど、友達だから捕まってほしくなかったから」

T 「捕まってほしくないんだ。じゃあ、自首をすすめている他の2人は友達じゃないの？」

S 「違います」

サバイユ派「ロレンゾが本当にお金を盗んでいたら自首をすすめるけれど、無実なら逃がした方がよいと思ってる」

T 「無実なら逃がしたほうがよい？ 無実だったら逃げる必要がないよね？」

S 「確かに」

「ロレンゾが本当にお金を盗んでいたら自首をすすめるけれど、本人が納得しなかったら、友達が悪者にされたくないから逃がしてあげる」

T 「友達だから逃がしてあげるの？ じゃあ、ニコライはロレンゾの友達じゃないの？」

S ニコライ派「もしロレンゾが自首することに納得せず逃げたとしても、後々自首すればよかったと後悔するかもしれない。警察に連絡すればそんな思いはしなくてすむ。友達じゃないわけではない」

T 「逃がしてあげるのはロレンゾにとってよくないってことだよな？」

S 「確かに」「いや、違う」

ニコライ派「友達だからこそ、悪いことはちゃんと認めさせないとだめだと思う」

(3人の考えに対し、「自分ならどうするのか」という視点から登場人物の立場になって子どもたちがしっかりと自我関与したことで、議論はどんどん白熱していく。やがて議論の焦点は「3人はそれぞれ本当にロレンゾのことを考えていたのか？」「3人はロレンゾのことを信じていたのか？」に絞られていく。)

S アンドレ派「アンドレもサバイユも信じているけれど、もしかしたらお金を盗んだ可能性があるから逃がしてあげる」

T 「逃がしてあげたら、逃がしたほうも罪になるのは皆知っている？」

S 「知ってる」
アンドレ派「でも、どうしても逃がしたい」

T 「なぜ？」

S アンドレ派「友達だから。3人ともロレンゾのためを思って意見しているけれど、ニコライはあまり信じていないから警察につきだそうとしている。友達なら信じるべき」

T 「さっきから何度か言っているけれども、お金を盗んでいなかったら逃がす必要はないよね？」

S 「そっかあ……」
ニコライ派「アンドレもサバイユもロレンゾを信じていない」

T 「信じていない！？ どういうこと？」

S ニコライ派「ロレンゾがお金を盗んだのは噂話なのに、2人とも信じていないから逃がそうとしたり自首をすすめたりする」

T 「なるほど。じゃあ3人はロレンゾのことを考えていないの？」

S 「違う」

T 「3人とも一生懸命ロレンゾのことを考えたのに、木の下で話し合ったことをなぜロレンゾに言わなかったのかな？」
「自分の考えをノートに書いたら、4人組になって話し合いました」

S 「1回でも疑ったと思われたらロレンゾが悲しむと思ったから」
「ロレンゾに話したら、『この人達本当に友達なの？』と思われる気がしたから」
「木の下で話したのはロレンゾのためであって、ロレンゾが無実なら話す必要がないと思ったから」
「本当のことを話してしまったら、ロレンゾと距離ができると思ったから」

T 「つまり、それはどういうことなの？」

S 「ロレンゾを悪者扱いしていた」
「ロレンゾを疑った」
「勝手に罪を犯した前提で考えていた」

T 「なるほどね」「では、今日のテーマだった、友情を深めるために必要なことって何だろう？」

S 「相手を思いやること」
「相手のことを考えること」
「相手を信じること」

(いくつかキーワードが出た後、最後の振り返りに入った。)

T 「今日の勉強を通して分かったことや考えが変わったこと、そしてこれからはどうしていき
たいかのかをノートにまとめてください」

(最後に関洋子さんの詩「友だち」を朗読し、授業が終了した。)

『友だち』 関洋子

わたしより
わたしのことを
よく知っている
ときどき
わたしのことを
わたしより一生懸命になる
その友だちの
わたしは友だち

(出典：東京都道徳教育教材集)

第2学年 道徳科学習指導案

主題名	相手を思いやる	B- (6)	親切, 思いやり
(教材名「だれとペアに？」 出典 明治図書「小学校 新モラルジレンマ教材と授業展開」)			

1 主題設定の理由

(1) 価値について

本主題は、指導内容 B- (2) 「身近にいる人に温かい心で接し、親切にする」の内容項目にあたる。第3, 4学年の「相手のことを思いやり、進んで親切にする」、第5, 6学年の「誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にすること」につながっていく。

私たちが生活する中で、思いやりの心をもって行動することは、人とよりよく関わるために欠かせないものである。人間は、自分一人では生きていけない。人が生きていくには、他者との絆が大切である。児童は、思いやりの心が相手を喜ばせ、笑顔にすることを知っている。その反面、日々の生活の中で言動を決定するとき、自己中心的に考えたり、自分自身の利害や損得を優先させたりすることも多い。また、この時期の児童にとって、相手の立場を考えて思いを押し量りながら自分の行動を決断する経験が少ない。思いやりの心が大切だとわかっていたとしても、それを自分の決断にうまく生かすことができず、友達同士のトラブルになることもある。授業を通して、相手を思いやる最善の判断を考えることで、思いやりの意味について改めて考え、自分の内面を見つめ直し、実生活に生かしていこうという心情を育てることが大切である。

児童にとっての「思いやり」が、自分の利害関係を中心としたものから、他者へ目を向け、温かい心で接していこうとするものに深まることで、より良い友達関係を築くことへつながっていくということに気づかせていきたいと考え、本主題を設定した。

(2) 教材について

本教材は、明治図書出版「小学校 新モラルジレンマ教材と授業展開」の資料が基になっている。小学校2年生のはるの学級に、物静かで消極的なあきが転校してきて隣の席になった。はるは先生からあきを助けるように言われたことをしっかりと受け止め、あきを気遣う中で次第に仲良くなっていく。そんなある日、学級活動の時間に、2人1組で活動するためのペア決めをすることになった。はるは、「ペアになってくれる。」と小さい声で申し出るあきに、快く了解する。しかし、その日、幼稚園からの友だちであるなつと出会い、「今度はペアになろうね。」という前々からの約束を思い出す。はるはどう返事をするべきかで迷い困ってしまう。本教材の主人公がどうすればよいか迷い揺れる気持ちというのは、本学級の児童にも切実な問題として共感することができるだろう。両者を選んだときの主人公の気持ちについてそれぞれ考えさせていくことで、日常生活で葛藤場面に遭遇したとき、相手の気持ちを考え、思いやりのある行動をしていこうとする気持ちを育てたい。

(3) 指導観

本教材は、強い心と弱い心、あるいは良い心と悪い心といった価値・反価値の葛藤を含まない。どちらを選んでも道徳的に理解が得られる。授業で子どもたちは間違えることを気にしなくてよい。このように、考える自由が保障されている授業の中で、自分ならどのように行動・実践するかを考えさせ、自分とは異なる意見と向かい合い話し合う中で、「相手を思いやる」という道徳的価値について多面的・多角的に学ばせていきたい。

手立てとしてはまず、資料の提示の仕方を工夫する。本教材は、ただ読むだけでは場面把握が難しい児童もいると考えられる。そこで、話の展開に沿って、挿絵や登場人物の情報を徐々に提示していく口演法を用いる。教材を提示しながら完成した相関図を板書の横に掲示しておくことで、問題場面をしっかりと把握させ、活発な話し合いにつなげていく。

次に、自分の考えを明らかにしたり、小グループで相談し議論したりする活動を取り入れることである。問題に対して主体的に考える時間を確保することで、児童の中で価値に対する理解をより深めていきたい。

2 考え議論する授業づくりの工夫

(1) 発問の工夫

①中心発問について

主人公にアドバイスするという形で、自分が同じ状況になった時にどうしたらいいのかを考えさせる。あきを選べばなつをがっかりさせ、なつを選べばあきを悲しませてしまう。児童にとって非常に難しい選択であるが、相手の気持ちを大切にしながら、3人が幸せになれるような解決方法を探していくことが大切だと気づかせる。

②議論のポイント

「そのアドバイスで、〇〇さんは幸せになれるかな？」と問いかける。一方の友達の気持ちばかり優先させていないか、自分はそれでいいのかを考えさせることで、より良い解決方法を見つけようとする気持ちをもたせる。

(2) その他の工夫

全体で話し合う前に、小グループでの話し合いを取り入れる。人数を少なくすることで、全員に発言の機会が与えられ、より主体的に活動に参加できる。友達の意見に対しても、「なぜ?」「でも、それは…」等、気軽に質問をすることができ、自分の考え方をより深めることができる。

中心発問「はるさんはどうしたらいいだろう。」に対する考えは、それぞれがワークシートに記入する。友達と十分に議論した結果、どのような道徳的判断をするのかひとり一人が問題としっかり向き合えるようにする。

3 ねらいに沿った授業評価の観点

授業の最後に振り返りとして、本時の学習をしてわかったこと、思ったことをまとめさせることで

児童の変容を評価していく。自己中心的な思いやりではなく、相手の立場や気持ちを考え、自分なりに良いと思うことを考え行動しようとする気持ちをもてたかを見取っていく。

4 本時の指導

(1) ねらい

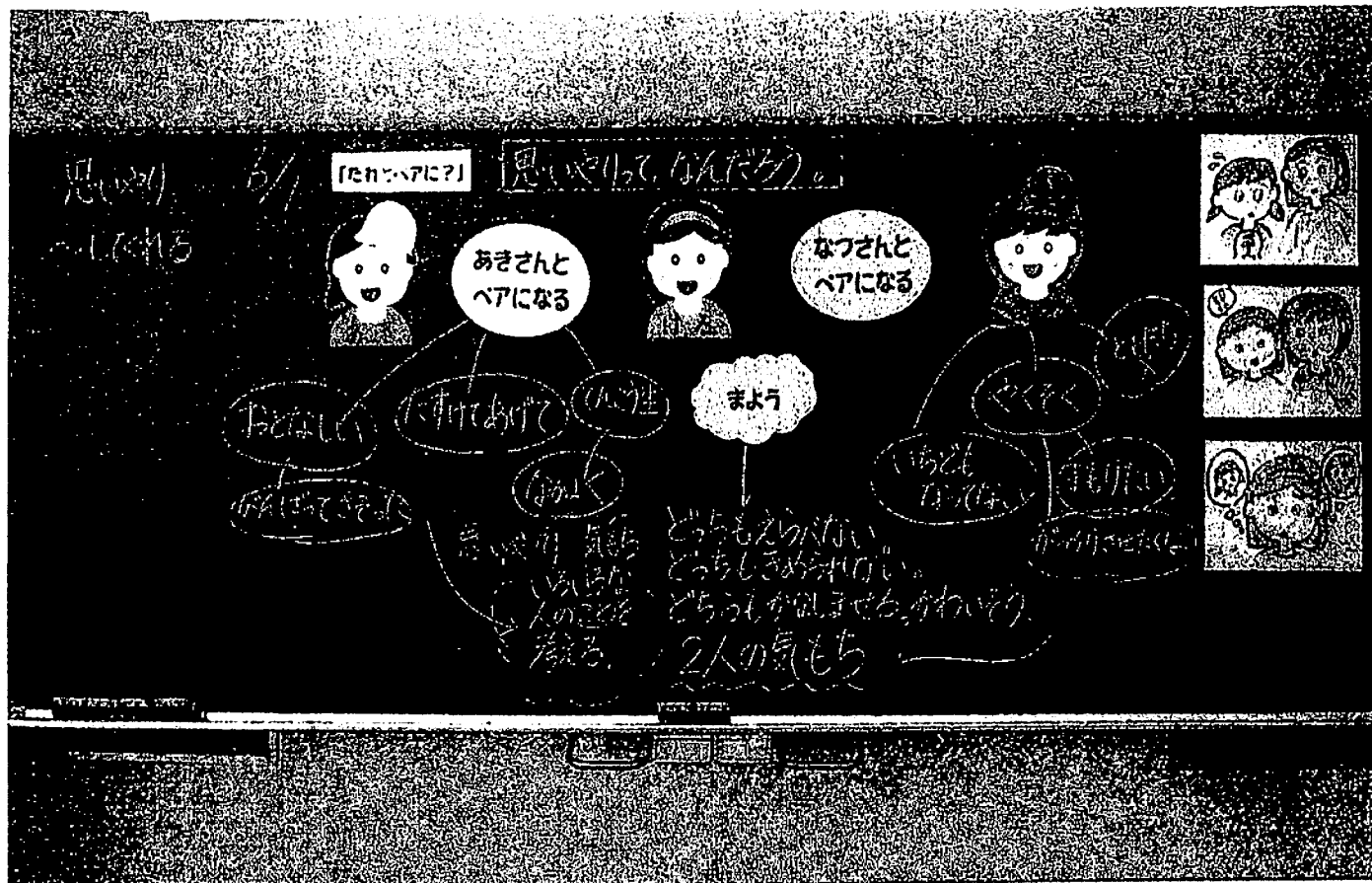
葛藤場面について様々な立場から考えさせることで、身近にいる人に温かい心で接し、思いやりのある行動をしていこうという心情を育てる。

(2) 展開

過程	時配	学習活動と主たる発問・ 予想される児童の反応	支援及び指導上の留意点 ★評価	資料
導入	3分	1 思いやりについて学習することを知る。 ○「思いやりのある人」ってどんな人？ ・鉛筆を貸してくれる人 ・勉強を教えてくれる人・・・	・事前にアンケートをとったものを提示する。 ・「～してくれる人」が「思いやりのある人」なのか問う。	
		思いやりってなんだろう。		
展開	22分	2 教材「だれとペアに？」を聞き、小グループや全体で話し合う。 ○自分のはるさんなら、どちらとペアになりますか。 【あきの場合】白帽子をかぶる。 ・友達が少ないあきさんを助けてあげたい。 ・断ったらあきさん泣いちゃうかもしれない。 ・先生に頼まれているから。 【なつの場合】赤帽子をかぶる。 ・なつさんとの約束を守りたい。 ・先に約束していたのに断ったらいけない。 ・もともと仲良かったから。 【迷ってしまう場合】帽子をかぶらない。 ・どちらかを選ぶと、どちらかが悲しんでしまう。 ・どちらともペアになりたい。決められない。	・場面絵を提示しながら口演法で教材を提示することで、関心を高める。 ・赤白帽子を使い、どちらを選んだかわかるようにさせる。1回目の意志決定では、葛藤をより感じさせるために必ずどちらか選択させる。 ・グループで話し合い、全体で話し合った後、2回目の意思決定をさせる。「迷う」という選択肢も入れることで、主人公の葛藤を理解しやすくする。 ・「(選ばれなかった)○○さんはどんな気持ちか。」と発問し、児童の考えを揺さぶる。 ・児童の考えをイメージマップで板書し、考えの対比をわかりやすくする。	場面絵 赤白帽子

		<p>○なぜペアをきめるのに迷うのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを思っているから。 ・どちらも悲しませたくないから。 ・友達の気持ちを考えているから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「迷う」を選択した児童に発言を促し、考えを全体に広げる。 ・どの考えにも共通していることを考えさせることで、どちらを選んでも相手への思いやりの気持ちがあることに気づかせ、迷ってしまった理由は、2人への思いやりの気持ちだったことを理解させる。 	
	10分	<p>3 主人公へのアドバイスを考える。</p> <p>◎はるさんは、どうしたらいいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あきさんとペアになった方がいいと思うよ。あきさんに勝われたことをなつさんに話せば、きっとわかってくれるよ。 ・なつさんと約束していたことをあきさんに正直に話して、あきさんのペアになる友達と一緒に探してあげたらどうかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが幸せになるような解決方法を考えることが大切だと理解できるようにする。 ★ゆみの迷う気持ちを捉え、どうしたらいいのか、自分なりの考えをもつことができたか。 (ワークシート・発言) 	ワークシート
	5分	<p>○思いやりって、どういうことだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の気持ちを考えること。 ・その人のことをよく考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の始めの考えを振り返る。 	
終末	5分	<p>4 本時の課題を振り返り、今後の生活に生かせるようにする。</p> <p>○今日の学習を通して、わかったことや思ったことをノートに書きましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が同じような状況になったときも、相手の気持ちを考えて解決策を考えようとする意欲を高める。 ★身近にいる人に温かい心で接し、思いやりのある行動をしていこうという気持ちをもてたか。 (ノート・発表) 	近畿ノート

(3) 板書



5 成果と課題

〈 成果 〉

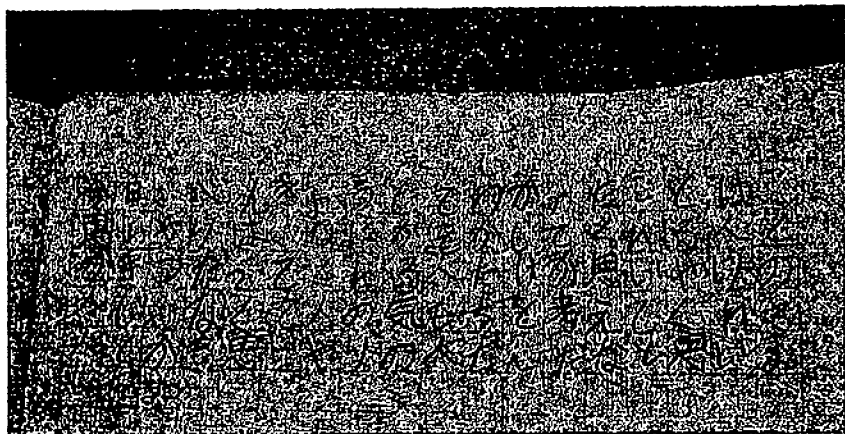
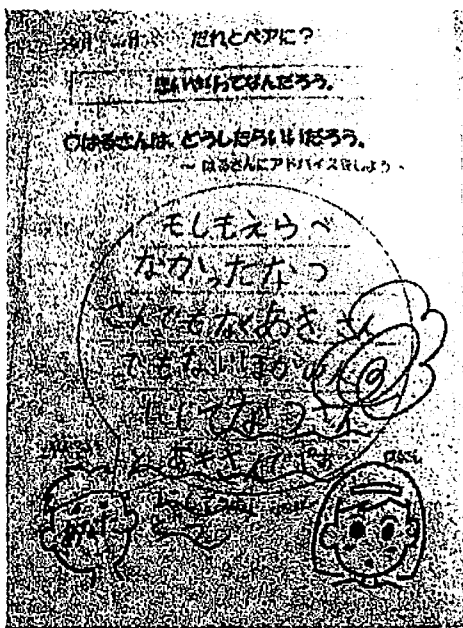
- 児童がペアになる相手を決めた後、「A (B) を選んだら B (A) はどんな気持ちになる？それはいじわるじゃないかな？」と揺さぶりをかけた。立場の違う相手の気持ちを想像し話し合うことで、児童はより葛藤し、思いやりの意味や、どうしたらみんなが幸せになれるかを真剣に考えた。
- 全体での議論に入る前に、小グループでの話し合い活動をもった。みんなの前ではなかなか発言できない児童にも意見を発表する機会ができ、意欲的に話し合っていた。友達の考えに対し、より自由な雰囲気や相づちをうったり、質問をしたりしていた。

〈 課題 〉

- 全体の前で発言できない児童も、ノートの振り返りを読むとしっかり考えをもっていることが伝わってくる。どの児童も伸び伸びと自分の意見を言い合えるための工夫が必要である。
- もっと時間があれば、多くの児童が発言したり、葛藤のなかでじっくり考えたりできたのではないかな。話し合いの時間を確保するために、他の活動をより精選する必要がある。

6 授業の実際

《ワークシート・ノート》



話し合いをした後に、主人公はどうしたらよいかアドバイスを考え記入するワークシートにした。それぞれの児童がどのような道徳的判断をしたかがわかる。また、ノートの振り返りから、価値に対して考えが深まったか読み取れる。

《話し合い活動》



登場人物の関係を理解できるように、教室前面に資料を掲示した。話の内容も簡単に振り返り、状況を理解する手立てとした。

どちらとベアになるか、1回目の意思決定(赤か白の帽子をかぶる)の後に小グループでの話し合いをもった。友達のを聞きながら帽子の色を変えても良いこととした。葛藤するなかで、帽子の色を決められずに迷う姿が多く見られた。



第4学年 道徳科学習指導案

主題名 正しいと思うことを A－(1) 善悪の判断、自律、自由と責任
(教材名 「本当の宝物」 出典 千葉県教育委員会 道徳教育映像教材)

1 主題設定の理由

(1) 価値について

本主題は、第3学年及び第4学年における内容項目A－(1)「正しいと判断したことは自信をもって行うこと。」を意図したものである。これは、第1学年及び第2学年A－(1)「よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと。」を受け、さらに第5学年及び第6学年A－(1)「自由を大切にし、自律的に判断し、責任のある行動をすること。」と深くつながっている。

善悪を正しく判断し、実行に移すことは、時に難しいことである。それは、自分自身の利害や欲求に負けたり、人間関係に気を遣いすぎて周りに流されたりしてしまうからである。中学年のこの段階においては、善悪の正しい判断はできるものの、叱られることを恐れてごまかしてしまったり、周りの友達に影響されて正しくない行動をしてしまったりもする。また、友達の良い行いに気付いても、友達関係の崩れを恐れて注意できずに見て見ぬふりをすることもある。そこで、善悪の判断が正しくできるこの時期に、正しいと思ったことは自信をもって行うことよさに気付かせ、行動しようとする態度を養いたいと考え、本主題を設定した。

(2) 教材について

本教材は、仲よし四人組の話である。「自分の宝物」をテーマにした粘土の作品から、文也は「天才」と呼ばれるようになる。文也は傷つくが、ひょうきんな態度でごまかしてしまう。その様子を見ている主人公の友太は、文也を気遣いながらも行動に移せずにいた。文也へのからかいは、「靴かくし」に発展してしまう。何とか靴が早く見つかるように仕向けた友太だったが、いたづらを繰り返す竜や一希に「やめよう。」と言うことはできなかった。しかし、兄との出来事を機に、謝ることを決心する。正しい行動をするためにはどうすればよいかをグループで話し合いながら考えさせることで、自分で判断したことは自信をもって行おうとする態度を育てたい。

(3) 指導観

この段階においては、児童は様々な学習や生活を通して、正しいことや正しくないことについての判断ができるようになってくる。しかし、悪いことだとわかっているにもかかわらずやめることができなかつたり、正しいと思うことがあっても相手によっては言えなかつたりと自分の弱さに負けてしまうことも多い。実態にもあるように、友達の行動がいけないことだとわかっているにもかかわらずばかり考えてしまい、正しい行動ができないこともある。

本教材では、人間誰でも悩みや弱さがあることを共通認識するとともに、一面的な考えでなくグループでの話し合いを通して、よりよい解決方法を多面的に考えさせていきたい。具体的には、文也の気持ちに気付いているが何も言い出せない友太の気持ちを自分の日常生活と照らし合わせながら共感させて、話を進める。また、友太の気持ちを考える中で、正しい行動をしたくても

行えない時の後ろめたさから、人間誰でも弱さをもっていることに気付かせていく。心の弱さに気付いた上で、正しい行動を行うためにはどうしたらよいかをグループで話し合い、問題に対して主体的に考えられるようにする。

議論を通して、自分のことだけでなく、相手のことを考えて行動していかなければならないことに気づき、本当の友達だからこそよい・悪いについて、互いに言い合うことが大切であることを感じ取らせていきたい。

2 考え議論する授業づくりの工夫

(1) 発問の工夫

①中心発問について

自分が友太だったら、布団の中でどんなことを思ったかを考え、中心発問である「正しい行動をするためには、どうすればよいだろう。」につなげていく。主発問で出てきた心の弱さを、中心発問で共有し、どのように向き合っていけばよいかをグループで話し合う。多面的・多角的に考えることで、自分のことばかりでなく相手の気持ちに寄り添って、正しいと判断したことは自信をもって行うことが大切だということに気付かせる。また、アンケート結果を提示することで、心の弱さや迷いに立ち返り、自分事として考え、実生活につなげられる方法について考えさせていきたい。

②議論のポイント

正しい行動をするためにはどうすればよいかを、グループごとに考え話し合う。グループで具体的な考えや意見を交流し、心の弱さに打ち勝つ方法を練り上げていく中で、自分にもできることを見つけさせていく。また、話し合いで出たよりよい方法を吹き出し黒板に書いて全体で話し合い、自分の立場ばかりを考えて、相手の気持ちを考えずに行動していないかを考えさせる。人の目を気にしたり、自分自身をごまかしたりせずに、正しい行動をすることがよりよい人間関係を築いていけることにも気付かせていく。

(2) その他の工夫

心の葛藤マップを使い、自分自身の様々な心の葛藤を導き出せるようする。

自分自身の葛藤から生まれてくる心の弱さにどのように向かい合っていけばよいかを、グループで話し合うことで、より多面的・多角的に考えられるようにする。また、吹き出し黒板を使ってグループで話し合い、正しい行動をするために必要なことを整理することで、よりよい方法を導き出させる。それぞれのグループから出てきた考えを黒板に貼り、心の弱さにどう向かい合っていけばよいかを人目でわかるようにすることで、終末の振り返りに役立てられるようにする。

3 ねらいに沿った授業評価の観点

授業の最後に振り返りの時間を設ける。本時の学習を通して何を学び、今後の生活において自分が問題場面に遭遇した場合、これからどうしていきたいかを生活と結びつけながら考えて書くことができるかを評価していく。周りに流されて行動するのではなく、自分が正しいと判断したことを強い意志をもってやろうとしているか見取っていきたい。

4 本時の指導

(1) ねらい

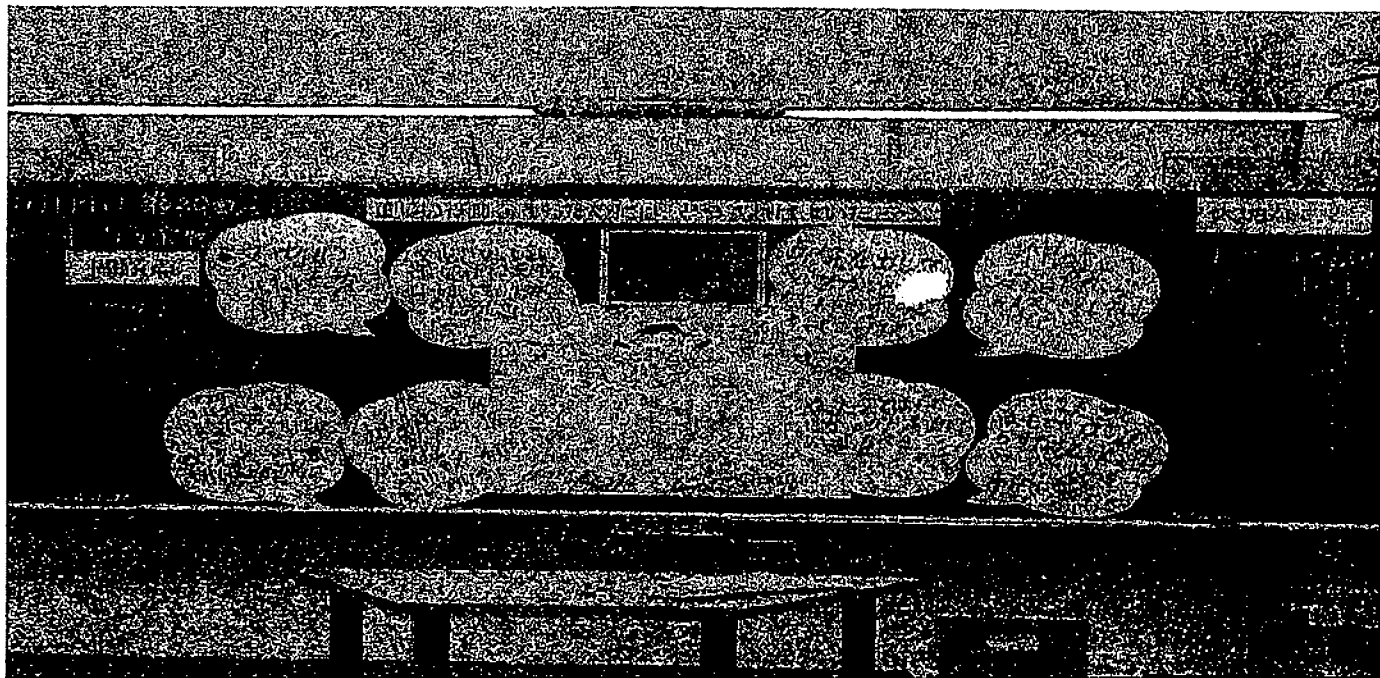
友太の気持ちを話し合うことを通して、正しいと判断したことは自信をもって行おうとする態度を育てる。

(2) 展開

過程	時配	学習活動と主たる発問・ 予想される児童の反応	支援及び指導上の留意点 ★評価	資 料
導入	3分	1 事前に視聴したDVDの内容について、資料をもとに振り返る。	・登場人物たちの関係を、簡潔に確認する。 ・DVDに登場する主な人物や場面の写真を提示し、状況の視覚化を図り、内容を理解しやすくする。	場面絵
展開	6分	2 映像教材について話し合う。 ○この話の問題点はどこだろう。 ・天才とひやかしたところ。 ・妬んだところ。 ・靴を隠したところ。 ・早く注意できなかつたところ。 ・友達に流されてしまったところ。	・話の内容から問題点を考え、正しい行動とは何かを考えさせることで、テーマにつなげる。	場面絵
	5分	○このような問題が起きたとき、どうしたらよいだろう。 ・ひやかしを止める。 ・靴を隠そうと言ってきた竜や一希に注意する。 ・一緒になってやらない。 ・すぐに謝る。	・からかいはいけないことと思いつつも、自分に降りかかることを恐れて何も言えない友太の弱さにも共感させる。 ・正しい行動をしたいという思いがあることを確認するとともに、事が起きてしまってから反省し、悩む友太の気持ちについて考える。	
	20分	○自分が友太だったら、布団の中でどんなことを思ったか考えてみよう。 ・ごまかしていた自分が恥ずかしい。 ・文也、大丈夫かな。 ・もっと早くに謝ればよかったな。 ・文也に謝らなければいけないよな。 ・文也に何て言おう。	・心の葛藤マップを用いて、自分の心の内について考え、誰にでも弱い自分がいることに気付く。 ・「兄だったらどうするか。」と切り返し、正しい行動とは何か考えられるようにする。	

		<p>◎正しい行動をするためには、どうすればよいだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・善悪を判断し、ごまかさずに行動する。 ・相手の気持ちを考えて、正しくない行動をしている人に注意する。 ・悪いことをしてしまったことに気付いたら、すぐに謝る。 ・一人で謝るのが怖ければ、友達と謝りに行く。 ・相手の表情から、気持ちに気付き声をかけたり、助けたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの心の弱さにどのように向き合い、行動していったらよいかをグループで話し合い、吹き出し黒板に記入する。 ・自分の考えをもち、お互いの意見に対して言い合う雰囲気大切に作る。 ・自分の考えを言うのが苦手な児童には、からかいや靴かかしをそのままにしていたら、どうなるか問い、相手の心情に寄り添えるようにする。 ・グループで話し合った後、全体で話し合う。 ・価値が偏った方向に流れたときは、アンケート結果などを出して、自分事と考えられるようにする。 ・正しい行動をするためには、善悪を判断し、ごまかさずに行動するとともに、相手の気持ちを考えることが大切なことに気付かせる。 <p>★状況に応じて自分で判断し、どのように行動すればよいか、考えをもつことができたか。</p> <p>(ノート・発表)</p>	吹き出し 黒板
	5分	3 話の続きを視聴する。		
終末	6分	<p>4 学習したことを振り返り、自分の考えを整理する。</p> <p>○今日の学習を通して、わかったことや思ったことをノートに書きましょう。</p> <p>○「わすれられないえがお」の話を聞こう。</p>	<p>★正しいと判断したことは自信をもって行おうとする気持ちをもてたか。(ノート・発表)</p>	道徳 ノート

(3) 板書



5 成果と課題

〈 成果 〉

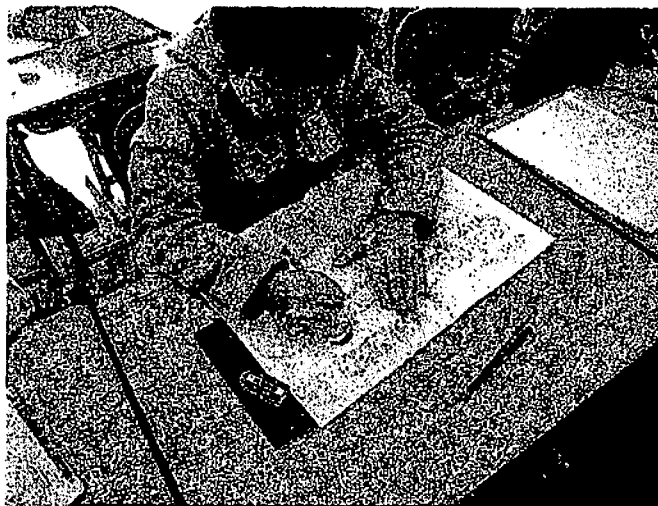
- 事前に映像教材の視聴，場面絵の掲示物を用意しておくことで，本時ではスムーズに問題点について話し合うことができた。
- 繰り返し場面で，事前アンケートを提示することにより自分事として捉えるきっかけとなり，今の自分を見つめ直し，正しい行動をとるためにはどうしたらよいのかをより具体的に考えようと積極的に話し合いに参加する児童が多かった。

〈 課題 〉

- どこを焦点化して考えさせるかによって，子どもの心の変容の追い方が変わってくるため，ねらいについてどのような手立てを行えばよいかを考えるのが難しかった。もっと早い段階で実態調査を行い，ねらいをしぼる必要があった。
- 中心発問の際に，自分自身の立場に立って考えさせたかったが，前段階で主人公の立場に立って考えていたため，すぐに自分事として捉えられていない児童がいた。補助発問の中で，少しずつ自分事として考えられるようシフトしていくべきであった。また，話し合い場面では教師対児童になっている部分があったので場合によっては相互指名を取り入れ，より深く本音で話し合うことも大切である。

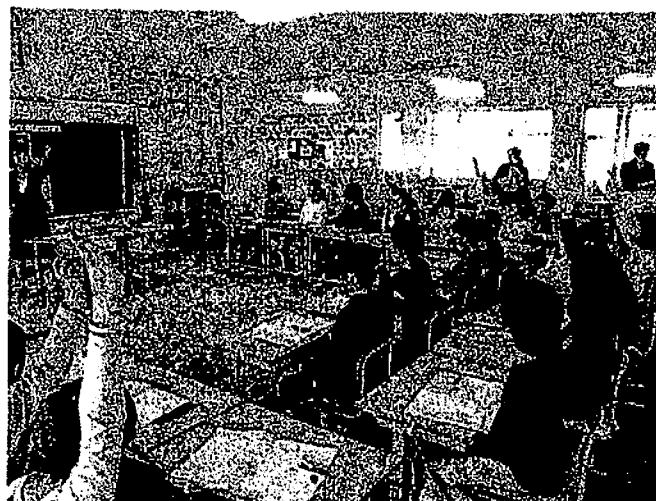
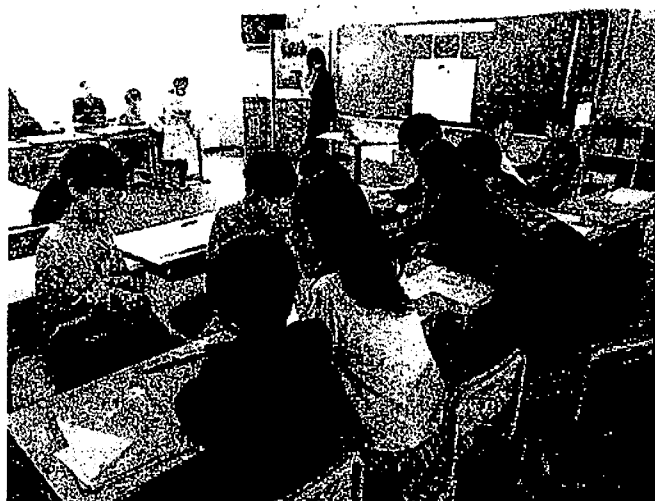
6 授業の実際

《ワークシート・思考ツール》



話し合いを行う前に、自分の考えをワークシートに書かせた。自分の考えをもとに友達と話し合いを行うことで、誰にでも心の弱さがあることに気付玖ことができた。

《授業の様子》



学校教材で起こりうる身近な問題を教材として取り入れることで関心を高めた。自分自身の葛藤から生まれてくる心の弱さについてグループで話し合うことで、心の弱さがあるのは自分だけではない安心感から、話し合いに積極的に参加し、互いの気持ちを共有した。それにより、改めて自分事として考え、正しい行動とは何かを考えられるようにした。

発表では葛藤マップを用いたり、グループでの話し合いが活発になるようグループごとに発問を投げかけたりすることで、より深く考えて発表できるようにした。

第6学年 道徳科学習指導案

主題名 正義の実現のために C- (13) 公正・公平
(教材名「ひきょうだよ」 出典 教育出版「小学どうとく はばたこう明日へ」)

1 主題設定の理由

(1) 価値について

本主題は、高学年内容項目 C- (13) 「誰に対しても差別することや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること」を意図したものである。これは、第3、4学年の「誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。」を受けたものであり、中学校の「正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努めること。」につながっていく。

大津市で起こった、中学生のいじめによる自殺によって、道徳の授業の見直しが行われ、平成30年から道徳が教科化された。その目的の一つに、「いじめ防止について大きな期待ができる。」とある。道徳科の授業の中でいじめについての問題を取り上げ、いじめ防止の意識を育てていくことが、教育現場の最重要課題の一つであるのではないかと考える。

この時期の児童は、心も体も成長していく中で、今まで仲良くしていた友達の良い所や嫌な部分が見えてきたり、閉鎖的な少人数のグループがいくつかできたり、友達関係が変化してくる。また、グループ内、友達内でも少しずつ優劣や上下関係が表れ、人間関係に悩む時期でもある。そういう中で、誰に対しても差別や偏見を持つことなく接していけるようになることこそ、いじめを防止する第一歩であり、いじめを見たときに自分に何ができるのか考え行動していくことが大切であると考え本主題を設定した。

(2) 教材について

本教材は、いじめの被害者であるたかひろさんと、加害者であるゆうすけさん達、そして傍観者である、ぼくとゆみさんが登場するいじめについて取り上げられているものである。たかひろさんは普段からゆうすけさんたちによって、ちょっかいを出されたり、嫌がらせを受けたりしている。その姿を見ていたぼくは、直接止めることができなかったが、たかひろさんの転校をきっかけに直接謝りに行く。しかし、たかひろさんから「ひきょうだよ」と言われ、何も言い返すことができなかった。たかひろさんに言われた「ひきょうだよ」という言葉の意味を考えることで、ぼくの行動から実生活での自分に何ができるのか考えさせたい。

(3) 指導観

本教材は、教室内で起こっているいじめを題材にして作られたもので、子どもたちにとってイメージのしやすい教材となっている。主人公が下校中のたかひろさんに、いじめを止められなかった事に対して謝る場面では、児童の中できっと許してくれると思うところだが、「ひきょうだよ」の一言に心が揺れるのではないだろうか。今までは、悪いことをしたら謝ることが大切で、謝れば許してくれると教えられてきた子供達にとっては衝撃の一言であるに違いない。謝れば許してくれるということは、謝る側の自己満足であり、謝られた側にとっては、必ずしも快いものではないということを考えさせ

たい。本時では、この「ひきょうだよ」の一言に注目して主人公がどう行動すべきだったか考えさせ、不正な行為は絶対に行わない、許さないという断固たる態度を育てていくとともに、いじめを傍観していることも加害者と同じことであることを理解させていきたい。

2 考え議論する授業づくりの工夫

(1) 発問の工夫

①中心発問について

たかひろさんが言った「ひきょうだよ」の言葉には、どんな気持ちが込められていたのか考えさせていく。たかひろさんに謝って許してもらおうと思った主人公の気持ちと、今更謝ることが「ひきょう」だと思うたかひろさんの気持ちの違いについて考えさせ、謝る前に自分にできることがなかったのか考えさせたい。

②議論のポイント

主人公が謝った行動について議論をしていく。謝ったから良いという意見と、謝るくらいなら止めるべきだという意見について話し合わせ、謝ったから良いという考えが自分勝手であることを押さえるとともに、いじめられる側からすると、謝られても何も解決しないことを考えさせ、中心発問につなげるようにしていきたい。

(2) その他の工夫

全体で話し合いを行う前に、隣同士やグループで話し合わせ、自分と同じ考えや違う考えに気付く事で、問題に対して多角的に捉えられるようにしていきたい。また、振り返りを家での宿題とし、保護者と話し合うことで大人の考えを取り入れ、いじめ問題について、自分がどのような行動をすべきなのか、より深く考えさせたい。

3 ねらいに沿った授業評価の観点

本時の評価は、いじめをなくすために自分ができることを考えることができたかどうかになる。そのために、自分の考えをノートに書かせ、その内容と振り返りの記述を参考に評価を行っていく。ただ単に正しい答えを書くのではなく、今の自分が絶対にできると考えていることが書かれているかが重要になってくる。

4 本時の指導

(1) ねらい

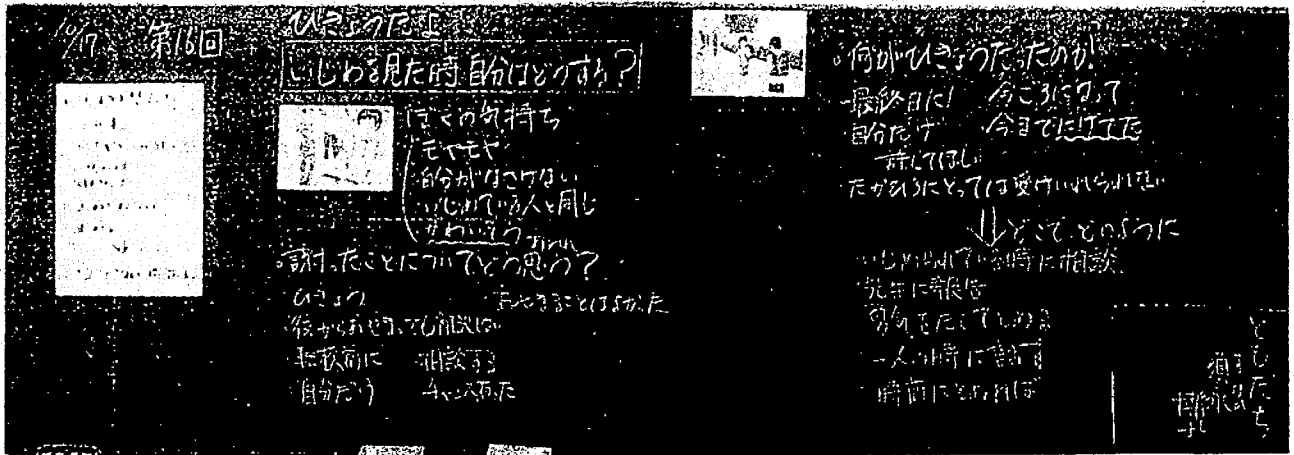
たかひろさんが言った「ひきょうだよ」という言葉の意味を考える事を通して、いじめをなくすために、自分から行動しようとする心情を育てる。

(2) 展開

過程	時配	学習活動と主たる発問と予想される児童の反応	指導上の留意点★評価	資料
導入	3分	<p>1 アンケート結果を振り返る。</p> <p>○いじめを見たらどうしますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意する ・先生や大人に相談する ・にげる ほっとく 関わらない ・止められない ・止める <p>○それは、自分にできますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できる ・できないかも ・場合による 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を提示し、いじめを見たときに自分がどのような行動をするのか振り返る。 ・どんな状況であれ、自分にアンケートで答えた行動ができるのか考えさせる。 	アンケート結果
いじめを見た時、自分ならどうする？				
展開	15	<p>2 教材文「ひきょうだよ」の前半部分を読み、話し合う。</p> <p>○たかひろさんが嫌がらせをされているのを見て、ぼくはどのような気持ちだったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・止めようと思うけど怖いな。 ・自分がされると嫌だな。 <p>○ぼくがたかひろさんに謝ったことについてどう思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転校する前に謝っておきたかったと思う。 ・罪悪感が残るので最後に謝っておきたかった。 ・謝ったからいいと思う。 ・何もできなかったのに、謝るのはおかしいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の前半部分の、ぼくがたかひろさんに謝った所までを読む。 ・目頃からたかひろさんが嫌がらせを受けている所を見ているが、トイレに行ってみて見ぬふりをしている事を確認する。 ・今までいじめを止めることができなかったのに、なぜ今になって謝ろうと思ったのか考えさせる。 ・少人数で話し合わせ、多角的な意見が出るようにし、その後全体で話し合う。 ・ぼくの立場ではなく、たかひろの立場でも考えるようにする。 	教材挿絵
	20	<p>3 後半部分を読み、たかひろの気持ちについて考える。</p> <p>○ぼくの行動の何がひきょうなのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひきょうだよ」の部分の子供達に考えさせ、後半部分を範読する。 	教材

		<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことだけ考えていたこと ・いじめの現場から逃げていた ・たかひろのことを考えて行動していなかった ・謝って済まそうとしていた <p>◎たかひろさんのために、ぼくはどこでどのように行動すべきだったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめている人たちに注意する。 ・ゆみさんと一緒に注意する。 ・たかひろさんのことを考えて行動する。 ・こっそり相談に乗ればよかった。 <p>○いじめを見たとき自分にできることは何だろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接止める。 ・先生や親に相談する。 ・友達の相談相手になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ぼくの気持ちだけでなく、たかひろさんの気持ちになって考えさせる。 ★たかひろさんがなぜ「ひきょうだよ」と言ったのか、自分の考えをもてたか。(発表・ノート) <ul style="list-style-type: none"> ・たかひろさんの言った「ひきょうだよ」の言葉を受けて、いじめを見ていたぼくに何ができたのか考えさせる。 ・何もせずに、ただ傍観者になっていることも、いじめに荷担していることを理解させる。 ・今の自分ができることではなく、いじめを止める為の方法をできる限り出させる。 ・たかひろの行動から、自分の行動を考えることで価値の一般化を図る。
終末	7	<p>4 学習を通して思った事や考えたことを書いて交流する。</p> <p>○「ともだち」の詩を聞く。</p> <p>○今日の学習を通して、わかった事や考えたことを発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の読み聞かせを行うことで、友達について振り返りあたたかい雰囲気で行うことができるようにする。 ★いじめを止めるために、本当に自分にできることはなにか、考えようとしている。(発表・ノート)

(3) 板書



5 成果と課題

〈成果〉

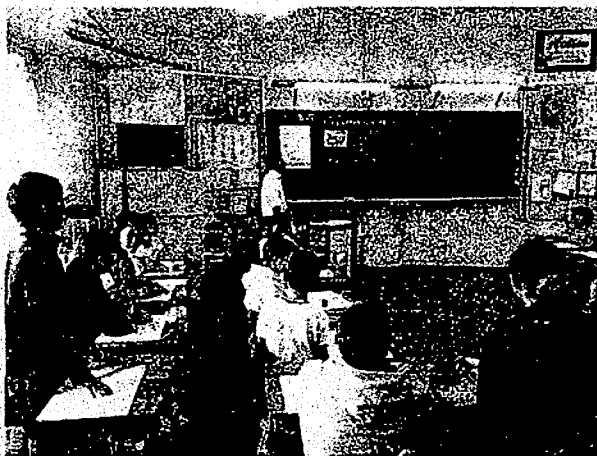
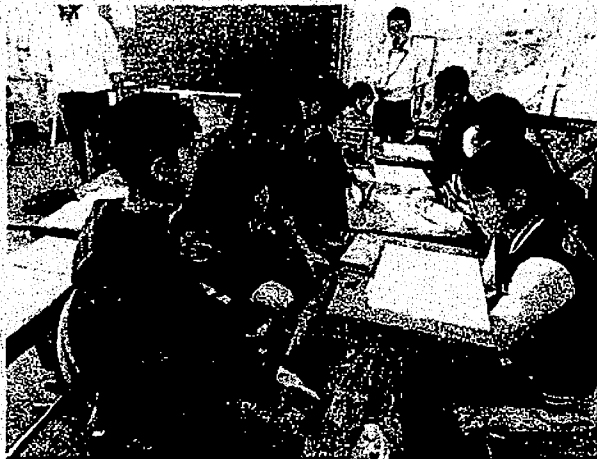
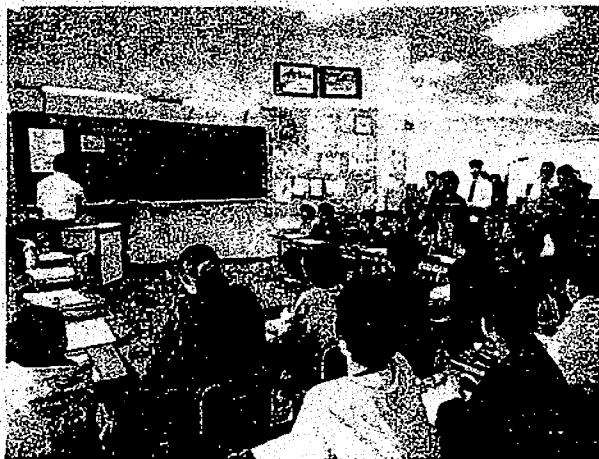
- いじめの現場を見たときに、自分に何ができるのかを現実的に考えることができた。直接は言えないけれど、先生に相談したり、親に相談したりすれば良いと言う考えをもったりする児童が多かった。また、今は注意することはできないけれど、大人になるにつれて、注意できる人になっていきたいと考えた児童もいた。
- 最後に「ともだち」の詩を読むことで、友達に対してどのように接する事が必要なのか、自分が友達にとって、どのような人になりたいのか考えることができた。

〈課題〉

- 児童の中には、いじめられる側にも責任があると思っている子がいるので、学習を始める前に、いじめについて何が悪いのか、いじめがどういうものなのか、理解させていかなければならない。
- 身近にいじめの問題がないため、他人事にならないように、問題解決の方法が本当にできるのか常に考えさせる必要があった。
- 今回は、教材を最後まで読まずに途中で切った。授業を行ってみて、最後まで読んだ方が効果的なのか、途中で切っても良いのか判断しかねる。

6 授業の実態

《授業の様子》



話し合い活動を増やし、意見交換を行うことで、お互いの意見を共有したり、自分が思いつかなかった考えなどを知ったりすることができた。また登場人物が言った「ひきょうだよ」の意味を話し合うことで、いじめを見たときにどのような行動をしないといけないのか、また色々ある選択肢の中で自分には何ができるのか考えることができた。

令和元年度 印教研道徳研究部研究集会

印教研提案資料

(平成30年度 道徳科公開研究会より)

令和元年8月20日(火)
印西市立原小学校

研究主題

自己を見つめ、心豊かに、
ともによりよく生きる子どもの育成
～問題解決的な学習を通して～

〈主題設定の理由〉

学習指導要領から

—基本方針— 児童が道徳的価値を自分との関わりで考えることができるような問題解決的な学習を取り入れることが有効

〈千葉県道徳教育の指針から〉

「いのち」をテーマとして、自己の生き方についての考えを深める → 問題解決的な学習を取り入れ、ものの感じ方や考えの異なる友だちとの話し合いを活性化させる。

〈学校教育目標から〉

人間性豊かな、考え行動できる、
心身ともにたくましい子どもの育成

「人間性豊かな」とは、思いやりのある子と考える。
問題解決的な学習の話し合い→自分と他者とのものの見方や考え方の違いに気づく。ともによりよい生き方を考えていく。

〈児童の実態から〉

地域・住民同士の関係は希薄。高い知識・理解の力→本音が出にくい。
友だちとの距離感やコミュニケーションがうまくとれない。
日常のできごとを自分のこととして主体的に考え、本音で議論し話し合う→
考えを深める。

研究仮説1

児童相互の積極的な関わりを生み出すような指導方法を工夫すれば、価値について主体的に考え議論し、自己のよりよい生き方について考えが深まるであろう。

研究仮説2

児童の変容の見取りを積み重ねて評価していけば、自らの成長を実感し、道徳的な実践意欲が向上するであろう。

仮説1 考え議論する

1. 発問について
2. 活発にするための様々な手立て
3. 板書
4. 終末の工夫

仮説2 評価

1. 観点
2. 評価の手立て

研究仮説1

<1時間の授業モデル>

【導入】

価値に迫るテーマを提示する

【展開】教材をつかむ

話し合う「考え 議論する」

中心発問について考える

【終末】

自分自身や価値について振り返る

研究仮説1

発問の工夫・吟味

- ①【導入】価値に迫るテーマの提示
- ②【展開】考え、議論するための発問
→一番盛り上がるころの発問
- ③【展開】内容項目(価値)に迫るための
中心発問

研究仮説 1

①【導入】価値に迫るテーマの提示

導入
それまでの児童の価値観や体験をゆさぶるものを引き出す。

テーマ
導入から児童に問題意識をもたせ、テーマ化する。

導入の例・・・自然教室に行って友情が深まった
テーマ
「さらにこの友情を深めるには、どうすればよいだろうか」

研究仮説 1

②【展開】考え、議論するための発問

↓

◎の中心発問の前の活動
大きな発問で進める
本音が出せるような工夫
切り返し、揺さぶりの発問

研究仮説 1

②【展開】考え、議論するための発問
「生きた礼儀」

マナーを守る人は礼儀正しいですね？

切り返しの発問
揺さぶりの発問

では、女王様はマナーを守っていないから礼儀正しくないですね。

研究仮説 1

②【展開】考え、議論するための発問

本音が出せるような工夫

切り返し、揺さぶりの発問

児童のつぶやきを取り上げる。

意見を対立させる話し合いの設定(A or B)

研究仮説 1

発問の工夫・吟味

- ①【導入】価値に迫るテーマの提示
- ②【展開】考え、議論するための発問
⇒一番盛り上がる場所の発問
- ③【展開】内容項目(価値)に迫るための
中心発問

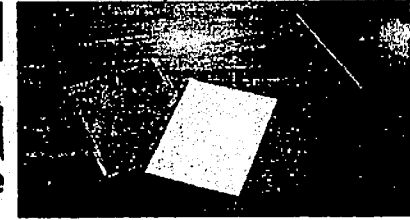
切り返しの発問
揺さぶりの発問

研究仮説 1

赤白帽子

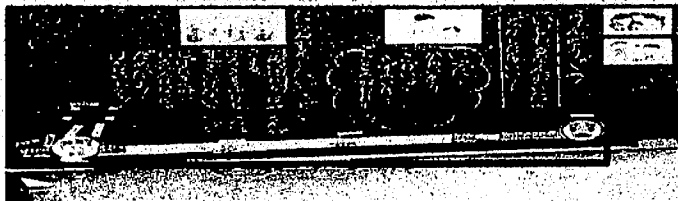


意思表示カード



研究仮説 1

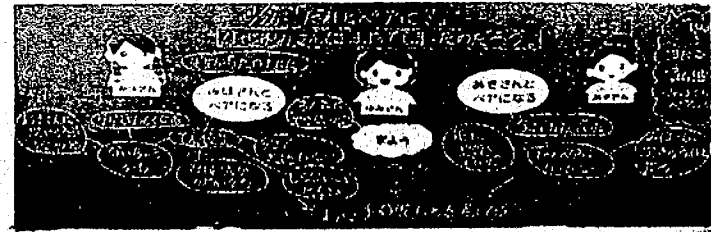
心情メーター



研究仮説 1

心と心のあく手

イメージマップ



研究仮説 1

役割演技

話し合いで生かす
付箋紙

研究仮説 1

実物の提示

紙芝居

「生きたれいぎ」
フィンガーボール

研究仮説 1

板書の構造化

日付

教材名

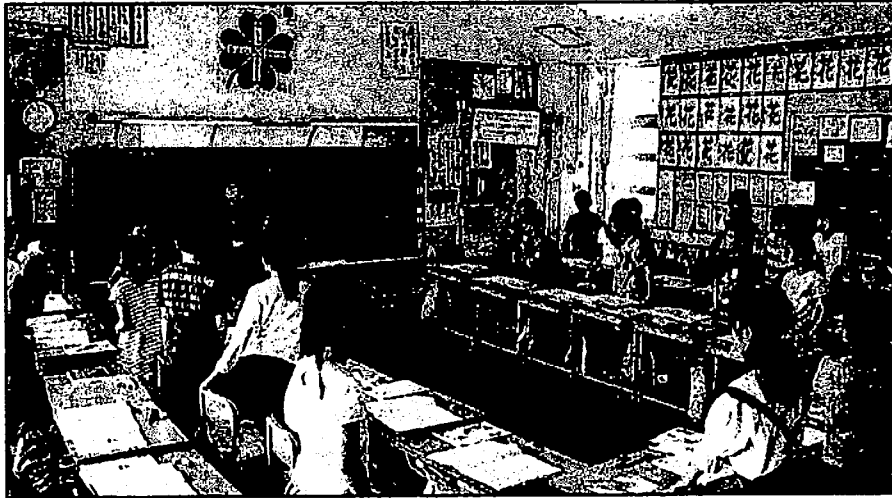
テーマ

価値の深まり

研究仮説 1

本音で語り合える場をつくる

ど んなことでも いいんだよ
う まく言えなくて いいんだよ
と もだちと はなしあって
く ラスや自分を よくしていこう



研究仮説2

評価の実際

1. 道徳的諸価値について理解したか。
2. 自己を見つめられたか。
3. 物事を多面的・多角的に考えられたか。
4. 自己の生き方についての考えを深められたか。

- ・道徳ノートやワークシートの記述
- ・授業の中での発言
- ・授業の終わりの自己評価

研究仮説2 道徳ノートの活用

研究仮説2

振り返りの書き方ガイド

わたしは努力を力にする、勇気のある人に
 なりたい。まよわない人になりたい。
 努力を力にする、勇気のある人に
 になりたい。まよわない人になりたい。
 努力を力にする、勇気のある人に
 になりたい。まよわない人になりたい。
 努力を力にする、勇気のある人に
 になりたい。まよわない人になりたい。

の気持ちで、勇気のある人になりたいです。
 本校の先生にや

